

(様式第 10)

徳大院総第 103 号  
平成 30 年 10 月 0 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人徳島大学  
学長 野地 澄

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 29 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 7 7 0 - 8 5 0 1 徳島県徳島市新蔵町 2 丁目 2 4 番地
氏 名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

徳島大学病院
--------

3 所在の場所

〒 7 7 0 - 8 5 0 3 徳島県徳島市蔵本町 2 丁目 5 0 - 1	電話(088)631-3111
---	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 呼吸器内科		
2 消化器内科		
③ 循環器内科		
4 腎臓内科		
⑤ 神経内科		
6 血液内科		
7 内分泌内科		
8 代謝内科		
9 感染症内科		
10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
11 リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	④			無
外科と組み合わせた診療科名				
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科	
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科	⑧小児外科	
診療実績				

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		⑬麻酔科	⑭救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④			無
歯科と組み合わせた診療科名				
①小児歯科	②矯正歯科	③口腔外科		
歯科の診療体制				

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1形成外科	2病理診断科	3リハビリテーション科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
45床	8床	0床	0床	643床	696床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	256人	216人	428.0人	看 護 補 助 者	41人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	81人	70人	129.8人	理学療法士	15人	臨床検査技師	56人
薬 剤 師	48人	0人	48人	作業療法士	6人		衛生検査技師
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助 産 師	45人	0人	45人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	667人	40人	702人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者	14人
准看護師	0人	1人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	36人
歯科衛生士	10人	6人	14.6人	歯科技工士	6人	事務職員	135人
管理栄養士	11人	9人	14人	診療放射線技師	39人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

#### 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	91人	眼科専門医	10人
外科専門医	43人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	13人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	6人
		合 計	288人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

#### 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(永廣 信治) 任命年月日 平成28年4月1日

リスクマネジメント委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	540人	18人	558人
1日当たり平均外来患者数	1,425人	452人	1,877人
1日当たり平均調剤数	入院 469.3剤, 外来178.3剤		
必要医師数	139人		
必要歯科医師数	25人		
必要薬剤師数	19人		
必要(准)看護師数	342人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十三条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	心電計	人工呼吸装置	心細動除去装置
集中治療室	225.5 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	11床	心電計	心細動除去装置	④・無
				④・無	ペースメーカー	④・無
			④・無			
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 495m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 0台		病床数	28床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 63m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	72m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動開栓受付分注装置, 全自動生化学分析装置			
細菌検査室	259m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 細菌同定薬剤感受性測定装置, 抗酸菌培養装置 細菌検査装置			
病理検査室	357m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置, SL医用写真撮影装置			
病理解剖室	161m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, スケール付ストレッチャー			
研究室	257m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) マルチスライスCT, 四肢用MRI, 回診用X線装置			
講義室	982m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 28室	収容定員 630人		
図書室	75m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 1室	蔵書数 4,000冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.9%	逆紹介率	62.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,770人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,860人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		410人
	D: 初診の患者の数		20,711人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
白川 剛	白川剛法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・無	1
森田 敏子	徳島文理大学保健福祉学部・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受けるものの立場から意見を述べることができる者(学識経験を有する者)	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 徳島大学・徳島大学病院のホームページにて公表	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンを用いた三ユニットブリッジ治療【平成30年4月1日付削除】	2人
FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定【平成30年4月1日付削除】	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 【平成30年2月1日付削除】	0人
アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法	0人
ベパールミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法	1人
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当ありません		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



## 4 指定難病についての診療

患者数	患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
10	56	球脊髄性筋萎縮症	48	ベーチェット病	48
53	57	筋萎縮性側索硬化症	48	特発性拡張型心筋症	48
4	58	脊髄性筋萎縮症	20	肥大型心筋症	20
1	59	原発性側索硬化症	0	拘束型心筋症	0
17	60	進行性核上性麻痺	30	再生不良性貧血	30
213	61	パーキンソン病	4	自己免疫性溶血性貧血	4
13	62	大脳皮質基底核変性症	1	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
0	63	ハンテントン病	27	特発性血小板減少性紫斑病	27
0	64	神経有棘赤血球症	1	血栓性血小板減少性紫斑病	1
4	65	シャルコー・マリー・トゥース病	8	原発性免疫不全症候群	8
99	66	重症筋無力症	23	IgA腎症	23
0	67	先天性筋無力症候群	28	多発性嚢胞腎	28
86	68	多発性硬化症／視神経脊髄炎	37	黄色靱帯骨化症	37
65	69	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	136	後縦靱帯骨化症	136
6	70	封入体筋炎	15	広範脊柱管狭窄症	15
0	71	クドウ・深瀬症候群	34	特発性大腿骨頭壊死症	34
44	72	多系統萎縮症	9	下垂体性ADH分泌異常症	9
83	73	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	1	下垂体性TSH分泌亢進症	1
4	74	ライソゾーム病	7	下垂体性PRL分泌亢進症	7
0	75	副腎白質ジストロフィー	9	クッシング病	9
5	76	ミトコンドリア病	4	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
51	77	もやもや病	24	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
3	78	プリオン病	58	下垂体前葉機能低下症	58
0	79	亜急性硬化性全脳炎	0	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
1	80	進行性多巣性白質脳症	0	甲状腺ホルモン不応症	0
5	81	HTLV-1関連脊髄症	1	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
0	82	特発性基底核石灰化症	0	先天性副腎低形成症	0
15	83	全身性アミロイドーシス	0	アジソン病	0
0	84	ウルリッヒ病	106	サルコイドーシス	106
0	85	遠位型ミオパチー	41	特発性間質性肺炎	41
0	86	ベスレムミオパチー	17	肺動脈性肺高血圧症	17
0	87	自己食空胞性ミオパチー	0	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	88	シュワルツ・ヤンペル症候群	5	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
26	89	神経線維腫症	1	リンパ脈管筋腫症	1
32	90	天疱瘡	19	網膜色素変性症	19
1	91	表皮水疱症	3	バッド・キアリ症候群	3
15	92	膿疱性乾癬(汎発型)	1	特発性門脈圧亢進症	1
2	93	スティーヴンス・ジョンソン症候群	32	原発性胆汁性肝硬変	32
0	94	中毒性表皮壊死症	1	原発性硬化性胆管炎	1
17	95	高安動脈炎	5	自己免疫性肝炎	5
3	96	巨細胞性動脈炎	85	クローン病	85
9	97	結節性多発動脈炎	159	潰瘍性大腸炎	159
24	98	顕微鏡的多発血管炎	0	好酸球性消化管疾患	0
16	99	多発血管炎性肉芽腫症	0	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
5	100	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
10	101	悪性関節リウマチ	0	腸管神経節細胞減少症	0
14	102	パージャール病	0	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
2	103	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	CFC症候群	0
223	104	全身性エリテマトーデス	0	コステロ症候群	0
99	105	皮膚筋炎／多発性筋炎	0	チャージ症候群	0
78	106	全身性強皮症	0	クリオピリン関連周期熱症候群	0
40	107	混合性結合組織病	0	全身型若年性特発性関節炎	0
31	108	シェーグレン症候群	0	TNF受容体関連周期性症候群	0
3	109	成人スチル病	1	非典型溶血性尿毒症症候群	1
3	110	再発性多発軟骨炎	0	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
113	筋ジストロフィー	10	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皸白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	4	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マジニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	5	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	24	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・データ提出加算
・歯科外来診療環境体制加算	・退院支援加算
・歯科診療特別対応連携加算	・精神疾患診療体制加算
・特定機能病院入院基本料	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料2
・診療録管理体制加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・医師事務作業補助体制加算1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・看護職員夜間配置加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・療養環境加算	・小児入院医療管理料2
・重症者等療養環境特別加算	・短期滞在手術等基本料1
・無菌治療室管理加算1	・短期滞在手術等基本料2
・無菌治療室管理加算2	・入院時食事療養(I)・入院時生活療養(I)
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・総合評価加算	
・病棟薬剤業務実施加算1	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・検体検査管理加算(IV)
・高度難聴指導管理料	・国際標準検査管理加算
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料1	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料2	・時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト
・がん患者指導管理料3	・ヘッドアップティルト試験
・外来緩和ケア管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・ロービジョン検査判断料
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携計画策定料	・内服・点滴誘発試験
・排尿自立指導料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・歯科画像診断管理加算1
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・在宅患者歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝学的検査	・外来化学療法加算1
・有床義歯咀嚼機能検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(I)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・網膜再建術
・がん患者リハビリテーション料	・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・精神科作業療法	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・認知療法・認知行動療法1	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・医療保護入院等診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・硬膜外自家血注入	
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・透析液水質確保加算2	・経カテーテル大動脈弁置換術
・手術用顕微鏡加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・手術時歯根面レーザー応用加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・歯科技工加算1及び2	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・腹腔鏡下肝切除術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術	・生体部分肝移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腎腸瘍凝固・燃灼術(冷凍凝固によるもの)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体腎移植術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・生体腎移植術	・病理診断管理加算2
・膀胱水圧拡張術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
・輸血管理料 I	
・輸血適正使用加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当ありません	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	22回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 22例 / 剖検率 12.6%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝性ジストニア・ハンチントン病の診療ガイドラインに関するエビデンス構築のための臨床研究	梶 龍児	神経内科学	¥11,960,000	補委 厚労省
難治性めまい疾患に関する調査研究	武田 憲昭	耳鼻咽喉科学	¥3,120,000	補委 厚労省
遺伝性ジストニア・ハンチントン病の診療ガイドラインに関するエビデンス構築のための臨床研究	後藤 恵	臨床神経科学	¥700,000	補委 厚労省
遺伝性ジストニア・ハンチントン病の診療ガイドラインに関するエビデンス構築のための臨床研究	瓦井 俊孝	臨床神経科学	¥700,000	補委 厚労省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	梶 龍児	神経内科学	¥650,000	補委 厚労省
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	梶 龍児	神経内科学	¥200,000	補委 厚労省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究	島田 光生	消化器・移植外科学	¥330,000	補委 厚労省
びまん性肺疾患に関する調査研究	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科学	¥300,000	補委 厚労省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	原田 雅史	放射線科学	¥200,000	補委 厚労省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	原田 雅史	放射線科学	¥500,000	補委 厚労省
血液凝固異常症等に関する研究	香美 祥二	小児科学	¥700,000	補委 厚労省
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての救急・災害医療体制の構築に関する研究	西村 匡司	救急集中治療医学	¥350,000	補委 厚労省
生殖補助医療の技術の標準化と出生児の安全性に関する研究	苛原 稔	産科婦人科学	¥20,000,000	補委 厚労省
遺伝学的アプローチによるジストニアの革新的治療法開発	宮本 亮介	神経内科学	¥9,880,000	補委 厚労省
難治性めまい疾患の診療の質を高める研究	武田 憲昭	耳鼻咽喉科学	¥7,852,001	補委 厚労省
早期診断と進展予防のためのバイオマーカー開発	安部 秀斉	腎臓内科学	¥800,000	補委 厚労省
大重メチルコハフミン筋注によるALSの治療薬開発研究	梶 龍児	神経内科学	¥99,970,000	補委 厚労省
臨床検体・臨床情報の集積とデータ解析	松崎 利也	産科婦人科学	¥390,000	補委 厚労省
ナローバンドUVBを発光するLEDを用いたアレルギー性鼻炎の光治療装置の開発	武田 憲昭	耳鼻咽喉科学	¥55,000,000	補委 文科省
脳卒中研究者新ネットワークを活用した脳・心血管疾患における抗血栓療法の実態と安全性の解明	里見 淳一郎	脳神経外科学	¥199,999	補委 厚労省
大腸がん超高危険度群におけるがんリスク低減手法の最適化に関する研究	高山 哲治	消化器内科学	¥1,500,000	補委 厚労省
筋萎縮性側索硬化症患者の疾患登録システムの構築と施設登録体制の整備	梶 龍児	神経内科学	¥500,000	補委 厚労省
外科手術症例登録データならびに医療費データの連携に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究	島田 光生	消化器・移植外科学	¥150,000	補委 厚労省
多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	島田 光生	消化器・移植外科学	¥250,000	補委 厚労省
メタボローム解析による肝発癌関連因子の検討	島田 光生	消化器・移植外科学	¥1,000,000	補委 厚労省

小計25件

①卵巣老化対策に関する生体医薬技術の臨床応用に関する諸規則整備に関する研究 ②卵巣-卵巣組織の凍結保存に関する諸規則整備に関する研究	苛原 稔	産科婦人科学	¥1,300,000	補委	厚労省
がん・生体登録システムの検討	苛原 稔	産科婦人科学	¥1,300,000	補委	厚労省
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装着型補助ロボット(RIAL-HND)を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	梶 龍児	神経内科学	¥1,820,000	補委	厚労省
革新的硬組織再生・再建システム創製	宮本 洋二	口腔外科学	¥2,600,000	補委	文科省
AI等の利活用を見据えた病理組織デジタル画像(WSI)の収集基盤整備と病理支援システム開発	上原 久典	病理部	¥5,049,999	補委	厚労省
分岐鎖アミノ酸代謝(BCAA)第II/III相臨床試験-BCAAの多変性低次・皮膚癌患者を対象とした有効性・安全性を検討するプラセボ対照二重盲検並行群比較試験及び非盲検継続試験	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科学	¥250,000	補委	東京医科歯科大
ワクチンによって予防可能な疾患のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究	東 桃代	呼吸器・膠原病内科学	¥1,000,000	補委	厚労省
発症時刻不明の急性期脳梗塞に対する適正な血栓溶解療法の推進を目指す研究	里見 淳一郎	脳神経外科学	¥150,000	補委	厚労省
人工知能の利活用を見据えた日本病理学会、日本放射線学会の画像連携による原発性脳腫瘍のデータベース構築における課題点・課題の抽出および地域連携における自立・持続型画像診断連携拠点の基盤構築・整備	上原 久典	病理部	¥35,829,300	補委	厚労省
Connectivity Map解析に基づいた新しい大腸癌予防薬の開発	高山 哲治	消化器内科学	¥8,450,000	補委	日本学術振興会
細胞外圧による間葉系幹細胞の分化運命制御機構の解明	岩本 勉	小児歯科学	¥9,360,000	補委	日本学術振興会
人工細胞を用いたオーラルケアシステムの基礎研究	木戸 淳一	歯周歯内治療学	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
慢性腎不全における鉄代謝恒常性破綻メカニズム解明ならびに新規治療戦略の基盤の確立	濱野 裕章	薬剤部	¥540,000	補委	日本学術振興会
周術期における医薬品管理モニタリングツールの開発	石田 俊介	薬剤部	¥550,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂の病態解析と早期診断・薬物治療へのアプローチ	永廣 信治	脳神経外科学	¥4,810,000	補委	日本学術振興会
金属アレルギーの感作機序の解明とそれに基づく戦略的治療法の開発	市川 哲雄	口腔顎顔面補綴学	¥3,380,000	補委	日本学術振興会
ラマン散乱光分析とインピーダンス測定を組み合わせた新しい組織診断技術の開発	高成 広起	糖尿病対策センター	¥6,110,000	補委	日本学術振興会
動脈壁と血管周囲脂肪組織に生じる無菌的慢性炎症の病態解明と新規制御法の開発	佐田 政隆	循環器内科学	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
肺がん微小環境の新たな標的・線維細胞を基軸とした薬剤耐性克服と革新的治療への展開	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科学 膠原病内科学	¥5,460,000	補委	日本学術振興会
次世代型高解像度逆遺伝学を駆使した歯牙形成異常関連遺伝子の構造機能相関の解明	泰江 章博	矯正歯科	¥4,030,000	補委	日本学術振興会
内胚葉発生プロセスからみた原発性肝癌における上皮間葉転換メカニズムの解明	石川 大地	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
成長期における咀嚼性刺激の変化が咀嚼筋及び下顎骨の性状に及ぼす影響	七條 なつ子	口腔顎顔面矯正学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
HIF-1α 遺伝子欠損マウスを用いた変形性頸関節症発症メカニズム解明	森 浩喜	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯への機械的刺激の中核伝達メカニズムー咬合感覚違和感患者の治療法開発に向けてー	松香 芳三	顎機能咬合再建学	¥2,690,000	補委	日本学術振興会
慢性心不全患者における下肢陽圧負荷心エコー法の臨床応用	西條 良仁	循環器内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病におけるL-DOPA誘発性ジスキネジアの機能病理に関する実験的研究	後藤 恵	難治性神経疾患病態研究	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
大腸癌幹細胞を標的とした新しい光線免疫療法の実用化	六車 直樹	消化器内科学	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
膠原病における潜在性肺高血圧症に対する早期治療介入の有用性	楠瀬 賢也	循環器内科学	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
肺癌間質の新たな血管新生阻害薬耐性メカニズムー薬剤耐性克服に向けた線維細胞研究ー	後東 久嗣	腫瘍内科学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会

音信号特微量を用いた針筋電図のリアルタイム判別システムの開発	野寺 裕之	神経内科学	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
新規抗骨髄腫薬を用いたTh1様 $\gamma$ $\delta$ T細胞の誘導法とその抗骨髄腫活性の増強法の開発	三木 浩和	輸血・細胞治療部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナルと(プロ)レニン受容体の制御による糸球体病態機序解明と治療戦略	漆原 真樹	小児科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
慢性腎臓病の発症・進展におけるADAM17の役割解明	香美 祥二	小児科学	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
生検組織診断による食道癌個別治療の実現	丹黒 章	胸部・内分泌・腫瘍外科学	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
乳腺幹細胞を用いた乳汁産生機能を有する乳腺の再生	森本 雅美	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
マウス肺移植による肺再生医療研究の可能性	吉田 光輝	呼吸器外科	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂予防を目指したinflammasomeに関する基礎的研究	多田 恵曜	脳神経外科学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤と歯周病に関する臨床および基礎的研究	兼松 康久	地域脳神経外科診療部	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
線条体コンパートメント構造に基づくドーパミン誘発性ジスキネジアの治療法開発	森垣 龍馬	脳神経外科学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
滑膜炎の慢性炎症およびインスリン抵抗性に着目した変形性関節症の発症・進行制御	浜田 大輔	整形外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
カプサイシン軟膏を用いた新しい嚥下障害の治療:機序の解明と嚥下性肺炎予防への応用	近藤 英司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥3,510,000	補委	日本学術振興会
小児先天性胆道拡張症における胆道癌発癌機構解明に関する研究	森 大樹	小児外科・小児内視鏡外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
超高磁場対応型の高弾性生体内金属開発	誉田 栄一	歯科放射線学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
ミュータンス連鎖球菌の糖輸送関連遺伝子がう蝕の発症に与える影響について	木村 智子	総合歯科診療部	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
訪問・在宅に向けた新しい概念の保存治療法の開発—高周波/電磁波などを応用して—	松尾 敬志	歯科保存学	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
初期の歯髄炎における象牙芽細胞の石灰化と生体防御機構の解明	武川 大輔	歯科(むし歯科)	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
骨形成作用を有する抗DKK-1抗体の効果メカニズムの解明	井上 美穂	顎機能咬合再建学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
疾患関連分子群の発現制御を基盤とするシェーグレン症候群治療法の開発	東 雅之	口腔内科学	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
mTORを介した心筋保護作用—虚血再灌流障害に対する新しい治療法の提案—	北畑 洋	歯科麻酔科学	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
遺伝科学的手法を用いた歯周炎惹起血管異常の予防および治療法の開発と麻酔薬作用	高石 和美	歯科麻酔科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
ユビキチンプロテアソーム系制御による廢用性筋萎縮抑制法の開発	川合 暢彦	口腔顎顔面矯正学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
デジタル歯画像解析技術を用いた個人識別法の開発	高野 栄之	口腔管理センター	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
SGLT2阻害薬による心外膜下脂肪厚への影響と将来の心血管イベント発症との関連	平田 有紀奈	検査部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
T細胞の量的・質的变化を指標とした抗PD1抗体の臨床効果予測バイオマーカーの確立	岡田 直人	薬剤部	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌の化学放射線療法におけるアポトーシスおよびオートファジーの役割	田中 宏典	地域消化器・総合内科学	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
線維細胞上の免疫チェックポイント分子に注目した肺癌免疫療法に関する治療戦略の開発	荻野 広和	呼吸器・膠原病内科学	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
代謝イメージングによる頭頸部リンパ節転移の高精度の診断法の確立	音見 暢一	放射線部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
胎仔肺組織の生着・分化におけるBipotential細胞の役割	河北 直也	呼吸器外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会

小計29件

共焦点レーザー内視鏡による術中リンパ節転移診断および胸膜浸潤診断の確立	澤田 徹	呼吸器外科	¥2,080,000	(補委)	日本学術振興会
多血小板血漿が骨延長術後骨筋線に及ぼす効果の病態解明	殿谷 一朗	臨床解剖学・研究センター	¥2,470,000	(補委)	日本学術振興会
三次元動作解析による手指運動の新規定量法の開発とミクロパッチハンドの動きの解明	佐藤 紀	リハビリテーション部	¥2,730,000	(補委)	日本学術振興会
吸入麻酔薬とGLP-1の心筋保護相互作用—ミトコンドリア機能に与える影響—	浜口 英佑	麻酔科	¥2,600,000	(補委)	日本学術振興会
吸入麻酔薬の心筋保護作用がミトコンドリアダイナミクスに与える影響	笠井 飛鳥	麻酔科	¥2,210,000	(補委)	日本学術振興会
網膜・視神経の神経保護と軸索再生研究	仙波 賢太郎	周産母子センター	¥2,080,000	(補委)	日本学術振興会
ケロイド・肥厚性瘢痕由来細胞への繰り返し伸展刺激による細胞内シグナルの解明	峯田 一秀	形成外科学	¥2,730,000	(補委)	日本学術振興会
機能印象の有効性に関する検討	松田 岳	口腔顎顔面補綴顎	¥1,430,000	(補委)	日本学術振興会
オッセオインテグレーションに関与するmicroRNAの同定	岩脇 有軌	口腔顎顔面補綴顎	¥1,430,000	(補委)	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌に対するNF- $\kappa$ Bを分子標的とした新規併用薬化学療法の開発	可児 耕一	口腔内科	¥1,820,000	(補委)	日本学術振興会
免疫機構に着目したDown症患者の歯周疾患の基礎的解析および治療法の開発	赤澤 友基	小児歯科	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
アロマトーゼ遺伝子欠損マウスにおける肥満と慢性炎症病態の関連性の解明	岩浅 亮彦	口腔顎顔面矯正学	¥1,430,000	(補委)	日本学術振興会
ニューロフィードバックトレーニングを応用した新しい口腔機能訓練法の開発とその評価	後藤 崇晴	口腔顎顔面補綴顎	¥2,340,000	(補委)	日本学術振興会
骨盤傾斜と寛骨臼骨頭被覆率は発育性股関節形成不全の新たな基準となるか?	和田 佳三	整形外科	¥2,470,000	(補委)	日本学術振興会
臨床ビッグデータを活用した新規抗てんかん作用の解明	武智 研志	臨床試験管理センター	¥2,600,000	(補委)	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎合併腫瘍の発見および治療法選択を支援する内視鏡画像解析システムの構築	岡久 稔也	消化器内科学	¥1,430,000	(補委)	日本学術振興会
コケイン症候群における転写調節異常と神経細胞の分化・維持機構への影響	橋本 悟	糖尿病対策センター	¥1,560,000	(補委)	日本学術振興会
Liquid biopsy及びDigitalPCRを用いた高感度胃癌診断法の開発	佐藤 康史	地域消化器・総合内科学	¥650,000	(補委)	日本学術振興会
血管内皮障害を基盤とする新規大動脈解離モデルの開発と分子病態の解明	石澤 啓介	薬剤部	¥1,560,000	(補委)	日本学術振興会
microRNA過剰発現ラットの作製とそれを用いた新しい不整脈発症機序の解明	森島 真幸	糖尿病対策センター	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
外因性リガンドとしての脂肪酸結合蛋白FABP4の前立腺癌増殖における意義	上原 久典	病理部	¥910,000	(補委)	日本学術振興会
新規抗酸化分子ApolipoproteinL1の腎保護作用機序の解明	村上 太一	腎臓内科学	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
糖尿病性腎症および腎硬化症の血管合併症分子病態解明とその修復法の開発	安部 秀斉	腎臓内科学	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
うつ病における幼少期の環境ストレス・自殺・病期と末梢血メチル化の関連研究	沼田 周助	精神医学	¥1,950,000	(補委)	日本学術振興会
レドックス制御と神経伝達バランスに関するMRIを用いたバイオマーカーの開発	原田 雅史	放射線医学	¥520,000	(補委)	日本学術振興会
磁化率強調画像とMRSによる出血・壊死イメージング:子宮肉腫の早期診断法の開発	竹内 麻由美	放射線科	¥1,040,000	(補委)	日本学術振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺胞幹細胞は障害肺の修復を加速させる	鳥羽 博明	胸部・内分泌・腫瘍外科学	¥1,560,000	(補委)	日本学術振興会
脳動脈瘤と歯周病に関する臨床および基礎的研究	里見 淳一郎	脳神経外科学	¥650,000	(補委)	日本学術振興会
高血糖が吸入麻酔薬およびGLP-1受容体の心筋保護相互作用に及ぼす影響	酒井 陽子	麻酔科診療部	¥1,170,000	(補委)	日本学術振興会

去勢抵抗性前立腺癌の進展に対するゲルクチン-3の腫瘍制御機構の解明と臨床応用	福森 知治	泌尿器科	¥910,000	補委	日本学術振興会
多嚢胞性卵巣症候群の診断基準におけるAMHとインスリン抵抗性の意義に関する研究	苛原 稔	産科婦人科学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
視床下部機能低下時の新規中枢神経ペプチドアナログによる新しい排卵誘発法の基礎検討	松崎 利也	産科婦人科学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯髄炎における炎症・抗炎症バランス制御機構の解析とTh17細胞の役割	中西 正	歯科保存学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
自然免疫を介した象牙芽細胞石灰化メカニズムの解明	平尾 功治	歯科保存学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
エピジェネティクス・転写後発現調節機構の解析による新規歯髄温存・石灰化療法の開発	湯本 浩通	歯科(むし歯科)	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
金属アレルギー発症過程における樹状細胞遊走因子の解析	渡邊 恵	歯科(そしゃく科)	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
チタン焼結体の歯科補綴への応用	友竹 偉則	口腔インプラントセンター	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアによる摂食嚥下障害の早期発見と早期介入	永尾 寛	口腔顎顔面補綴学	¥910,000	補委	日本学術振興会
睡眠時ブラキシズムの顎運動を制御する方法の検討	大倉 一夫	歯科(かみあわせ補綴科)	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
創傷治癒不全および難治性口内炎に対する新規治癒促進剤としてのレプチンの挑戦	工藤 景子	口腔外科学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
IP-10を分子標的としたシェーグレン症候群の新規診断・治療法の開発	青田 桂子	口腔内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
PD-1を標的としたHDAC阻害剤とOK-432による口腔癌に対する新規免疫療法	大江 剛	口腔外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔癌頸部リンパ節転移のバイオマーカーとしての血液中microRNAの探索	玉谷 哲也	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
基質小胞分泌メカニズムの解明と石灰化への応用	上田 公子(山口公子)	小児歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
最終糖化産物とインフラマソームの関連から探る糖尿病関連歯周炎の病態	板東 美香	歯科(歯周病科)	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯周病におけるメルトニンの役割解明および治療への応用	細川 育子	歯科保存学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
iPlaqueを用いた頸動脈プラークの性状評価による動脈硬化疾患の予後予測	山田 博胤	キャリア形成支援センター	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
メタボリック症候群における新指標を用いた高リスク非アルコール性脂肪性肝疾患の抽出	曾我部 正弘	地域総合医療学	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
オートファジー選択的基質p62を標的とした新しい大腸癌治療法の開発	岡本 耕一	消化器内科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
肝癌における肝転移の分子機序の解明と新規血清バイオマーカーの確立	宮本 弘志	消化器内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
自己由来遊離核酸断片の認識を介した動脈硬化発症機序の解明	福田 大受	心臓血管病態医学	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
新規遺伝子改変法によるメサンギウムの糸球体形成と糖尿病性腎症への系譜的役割の解明	長井 幸二郎	検査部	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
DNA損傷応答制御による慢性腎臓病の治療法開発	岸 誠司	検査部	¥910,000	補委	日本学術振興会
食事パターンスコアによるメタボリック症候群の革新的生活習慣改善法の開発	船木 真理	糖尿病対策センター	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
肺高血圧症における血管外膜およびvasa vasorumの役割解明と治療応用	早瀬 康信	小児科学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
表皮細胞のリプログラミングと腫瘍化プロセス	久保 宜明	皮膚科学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
胆管構造を有する機能的肝組織再構築に関する研究	森根 裕二	消化器・移植外科学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ADSCを用いた3次元培養による効果的腫瘍様細胞作成に関する研究	池本 哲也	安全管理部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会

肺癌の浸潤に伴う自家蛍光変化のメカニズム解明と術式選択への応用	滝沢 宏光	胸部・内分泌・腫瘍外科学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
肺organoidを用いた肺細胞・組織移植による肺再生の試み	川上 行奎	地域外科診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
難治性運動異常症の診断と治療前後におけるFDG-PET画像解析の有用性	牟礼 英生	脳神経外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
腰部脊柱管狭窄症における黄色靱帯肥厚メカニズムの解明	西良 浩一	運動機能外科学	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
腰椎分離症の先天的(遺伝的)要因の解明	酒井 紀典	脊椎関節機能再建外科学	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
細胞膜マイクロドメインを介する心筋保護作用に高血糖が及ぼす影響	堤 保夫	麻酔・疼痛治療医学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
高血糖による吸入麻酔薬の心保護効果減弱とグルコース輸送体の関連	田中 克哉	麻酔・疼痛治療医学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
前庭代償の新しい評価法を用いた前庭代償の促進薬の開発:動物モデルを用いた研究	武田 憲昭	耳鼻咽喉科学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
姿勢制御に対する視覚依存から体性感覚依存へ重み付けを再調整する平衡訓練法の開発	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
狭帯域紫外線によるヒスタミンH1受容体遺伝子発現亢進の抑制機構の解明	北村 嘉章	耳鼻咽喉科学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症の病因におけるPPAR $\gamma$ を介したサイクリン依存性キナーゼ5の役割	三田村 佳典	眼科学	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
重症患者における血中オレキシン活性がICU譫妄発症の病態機序に与える影響	大藤 純	ER・災害医療診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
口腔癌顎骨浸潤モデルの確立と、顎骨浸潤評価を目的としたCT検査の開発	高橋 章	口腔外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
抗菌性フッ化ジアンシリケート溶液の根面齲蝕予防剤への臨床応用	菅 俊行	歯科(むし歯科)	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
PEEK樹脂による審美的クラスプの開発	石田 雄一	歯科(そしゃく科)	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
歯科インプラント治療の確実性を高める多機能メンブレンの開発	内藤 禎人	口腔インプラントセンター	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
金属アレルギー;感作と発症間に何があるのか?—特異的遺伝子の同定—	細木 真紀	顎機能咬合再建学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
歯髄細胞の幹細胞化を応用した新規治療法の開発	宮城 麻友	歯科(かみあわせ補綴科)	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
BCS方式による歯列接触モニタの開発と応用	西川 啓介	歯科(かみあわせ補綴科)	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
3D-Printerで容易に成形できるリン酸カルシウムセメントの創製	河野 文昭	総合診療歯科学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
発生期の上皮間葉相互作用を再現したiPS細胞の分化誘導法と唾液腺再生医療の開発	山村 佳子	口腔外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
硫酸カルシウムから作製した多孔質炭酸アパタイトと骨髄幹細胞による骨再生医療の開発	藤澤 健司	口腔外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
再生神経細胞の軸索ガイダンスにおける麻酔薬の関与	富岡 重正	歯科麻酔学	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
歯根膜組織の再生・恒常性維持マシナリーに関与する新機能の探索および応用法の開発	長谷川 智一	小児歯科学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
p-HPPHを分子標的とした新規創傷治癒促進薬の開発	中川 弘	小児歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎のIL-6動態に着目したマクロファージ・線維芽細胞クロストーク	成石 浩司	歯科(歯周病科)	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
破骨細胞と骨芽細胞のクロストーク(骨カップリング)を標的とした新規歯周治療の開発	稲垣 裕司	歯周歯内治療学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
歯周炎病変局所における炎症性骨吸収に関与する白血球浸潤機構の解析	細川 義隆	歯科保存学	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛に対する自律神経調節機能の強化—心拍変動バイオフィードバック法の試み—	桃田 幸弘	口腔内科学	¥780,000	補委	日本学術振興会

細胞性バイオマーカーを用いたインプラント疾患の診断とデバイス開発	木戸 淳一	歯周歯内治療学	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
消化器がん患者における主観的包括的栄養評価法の有用性	濱田 康弘	栄養部	¥910,000	補委	日本学術振興会
加齢に伴う筋萎縮状態克服を目標とする安心・安全な治療の基礎的検討	泰江 章博	矯正歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
動脈グラフト移植後石灰化発生メカニズムに関する研究	黒部 裕嗣	心臓血管外科学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
癌細胞の低酸素、酸性環境下における薬剤耐性に対する治療薬の開発	渡邊 佳一郎	口腔顎顔面矯正学	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連菌叢の重症化機序におけるカルプロテクチンの作用	生田 貴久	歯科(歯周病科)	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
心肺停止状態に対する低酸素選択的ナノDDS製剤を用いた脳神経障害根治薬の開発	座間味 義人	臨床薬理学	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
周術期患者に対するホニューペプチドの有用性	久米 克佳	麻酔科診療部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
慢性腎不全における鉄代謝異常とサルコペニア発症の分子メカニズム解明	堀ノ内 裕也	薬理学	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
がん抑制性ニッチの実態とその誘導による新規治療法の開発	中村 信元	血液・内分泌代謝内科学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
腎虚血再灌流傷害における活性酸素種産生を介した急性尿管壊死形成機序の解明	今西 正樹	薬剤部	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
大腸カルチノイドの転移因子の探索	北村 晋志	消化器内科学	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ヒストン脱メチル化酵素JMJD2Aは切除不能胃癌の新しい治療効果予測因子である	中川 忠彦	消化器内科学	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来線維細胞(fibrocyte)の肺癌進展における役割の検討	西條 敦郎	地域総合医療学	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
糖尿病性糸球体硬化のChip-Seq解析と核内受容体を標的とした効率的治療	田蒔 昌憲	腎臓内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
経口免疫療法が抗原特異的免疫グロブリンのクラススイッチと質変化に与える影響と予後	杉本 真弓	小児科学	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
One-carbon metabolismに着目した統合失調症病態解析研究	木下 誠	精神科神経科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
末梢白血球中の遺伝子発現を用いた精神疾患の診断マーカーの開発	渡部 真也	精神医学	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
超音波検査を用いた心房細動患者における心不全を含めた心血管イベント予測因子の検討	鳥居 裕太	超音波センター	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
ラジオ波焼灼療法後に局所再発をきたす肝細胞癌の悪性度獲得のメカニズムに関する研究	山田 眞一郎	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
FXRを介した腸管免疫機構に着目したDJBの有用性に関する研究	柏原 秀也	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた転写因子制御による肝虚血再灌流障害の新たな治療法の開発	高須 千絵	消化器・移植外科学	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
腫瘍免疫におけるTSP-1によるPD-1, PDL-1への作用機序の解明	中尾 寿宏	周産母子センター	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
食道幹細胞を用いた食道の再生	西野 豪志	卒後臨床研修センター	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
小胞体ストレス応答因子ATF6の骨代謝制御の解明	森本 雅俊	整形外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
MR拡散テンソル画像を用いた障害神経の新たな評価ツールの開発	宮城 亮	整形外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
次世代型人工膵臓でAKI予防に挑戦—酸化ストレスからのアプローチ—	箕田 直治	手術部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
虚血性皮弁壊死に対する新薬開発—強力な抗酸化作用を介して壊死進行を抑制する—	福永 豊	動物飼育実験室	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
筋萎縮性疾患に対する機能性リボソームを用いた新規核酸医薬の開発	森 博世	矯正歯科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会

小計29件



最終糖化産物とリポ多糖による骨細胞スクレロシチンの発現調節と骨代謝への影響	坂本 英次郎	歯科(歯周病科)	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
線維細胞の遊走を標的とした新たな膠原病肺治療法の開発	河野 弘	呼吸器・膠原病内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
microRNA過剰発現ラットの作製とそれを用いた新しい不整脈発症機序の解明(国際共同研究強化)	森島 真幸	糖尿病対策センター	¥0	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬の心筋保護作用における細胞膜マイクロドメインとオートファジーの役割(国際共同研究強化)	堤 保夫	麻酔・疼痛治療医学	¥0	補委	日本学術振興会
線条体ストリオソームを標的としたLドーパ誘発性ジスキネジアの新たな治療法の開発(国際共同研究強化)	森垣 龍馬	脳神経外科学	¥14,560,000	補委	日本学術振興会
低酸素応答遺伝子を介した代謝プログラミングによる口蓋瘻痕形成抑制への挑戦	井澤 俊	口腔顎顔面矯正学	¥4,810,000	補委	日本学術振興会
におい強度に着目した唾液流量測定法の開発	市川 哲雄	口腔顎顔面補綴学	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
睡眠衛生指導による睡眠時ブラキシズムへの効果の検討	鈴木 善貴	顎機能咬合再建学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
出血部位でも硬化する新規骨補填再建材料としてのβ-TCP顆粒セメントの開発	福田 直志	口腔外科学	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
p21遺伝子欠損マウスを用いた変形性顎関節症発症メカニズム解明への挑戦	岡 彰子	矯正歯科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会

計209件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの  
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する  
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kusunose K, Yamada H, Nisio S, 他	循環器内科	Echocardiographic Predictors for Worsening of Six-Minute Walk Distances in Patients with Systemic Sclerosis (Scleroderma)	Am J Cardiol. 2017 Jul ;120:315-321	Original Article
2	Kusunose K, Torii Y, Yamada H, 他	循環器内科	Clinical Utility of Longitudinal Strain to Predict Functional Recovery in Patients with Tachyarrhythmia and Reduced LVEF	JACC Cardiovasc Imaging. 2017 Feb;10:118-126	Original Article
3	Maimaituxun G, Shimabukuro M, Salim HM, 他	循環器内科	Gender-Linked Impact of Epicardial Adipose Tissue Volume in Patients Who Underwent Coronary Artery Bypass Graft Surgery or Non-Coronary Valve Surgery	PLoS One. 2017 Jun;12:e0177070	Original Article
4	Yamada H, Tanaka A, Kusunose K, 他	循環器内科	Effect of sitagliptin on the echocardiographic parameters of left ventricular diastolic function in patients with type 2 diabetes	Cardiovascular Diabetology. 2017 May;16:63	Original Article
5	Bando S, Soeki T, Matsuura T, 他	循環器内科	Plasma Brain Natriuretic Peptide Levels Are Elevated in Patients with Cancer	PLoS One. 2017 Jun;12:e0178607	Original Article
6	Kusunose K, Yamada H, Nishio S, 他	循環器内科	RV Myocardial Strain During Pre-Load Augmentation Is Associated With Exercise Capacity in Patients With Chronic HF	JACC Cardiovasc Imaging. 2017 Oct;10:1240-1249	Original Article
7	Yagi S, Mitsugi M, Sangawa T, 他	循環器内科	Paget-Schroetter Syndrome in a Baseball Pitcher	Int Heart J. 2017 Aug;58:637-640	Original Article
8	Yagi S, Fukuda D, Aihara KI, 他	循環器内科	n-3 Polyunsaturated Fatty Acids: Promising Nutrients for Preventing Cardiovascular Disease.J Atheroscler Thromb	J Atheroscler Thromb. 2017 Oct;24:999-1010	Original Article
9	Yagi S, Soeki T, Aihara K, 他	循環器内科	Low Serum Levels of Eicosapentaenoic Acid and Docosahexaenoic Acid are Risk Factors for Cardiogenic Syncope in Patients with Brugada Syndrome	Int Heart J.2017 Oct;58:720-723	Original Article
10	Kusunose K, Yamada H, Nishio S, 他	循環器内科	Pread Stress Echocardiography Predicts Outcomes in Patients With Preserved Ejection Fraction and Low-Gradient Aortic Stenosis	Circ Cardiovasc Imaging. 2017 Oct;10	Original Article
11	Yagi S, Hirata Y, Ise T, 他	循環器内科	Canagliflozin reduces epicardial fat in patients with type 2 diabetes mellitus	Diabetol Metab Syndr. 2017 Oct;9:78	Original Article
12	Yagi S, Aihara KI, Kondo T, 他	循環器内科	Predictors for the Treatment Effect of Sodium Glucose Co-transporter 2 Inhibitors in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus	AdvTher. 2018 Jan8;35:124-134	Original Article
13	Sato S, Shinohara S, Hayashi S, 他	呼吸器・膠原病内科	Anti-fibrotic efficacy of nintedanib in pulmonary fibrosis via the inhibition of fibrocyte activity.	Respir Res. 2017 Sep; 18(1):172 (オンライン)	Original Article
14	Sato S, Kolb MR	呼吸器・膠原病内科	Personalised medicine for IPF: getting closer, but not there yet.	Lancet Respir Med.2017 Nov; 5(11): 836-837	Review
15	Goto H, Nishioka Y	呼吸器・膠原病内科	Fibrocytes: A Novel Stromal Cells to Regulate Resistance to Anti-Angiogenic Therapy and Cancer Progression.	Int J Mol Sci. 2018 Jan; 19(1):98	Review
16	Goto H, Okano Y, Machida H, 他	呼吸器・膠原病内科	Phase II study of tailored S-1 monotherapy with a 1-week interval after a 2-week dosing period in elderly patients with advanced non-small cell lung cancer.	Respir Investig. 2018 Jan; 56(1):80-86	Original Article
17	Kozai H, Toyoda Y, Goto H, 他	呼吸器・膠原病内科	A case of interstitial pneumonia associated with anti-PL-7 antibody in a patient with rheumatoid arthritis.	J Med Invest. 2018 Feb; 65(1,2):147-150	Case report
18	Fujimoto D, Muguruma N, Okamoto K, 他	消化器内科	Linked color imaging enhances endoscopic detection of sessile serrated adenoma/polyps.	Endoscopy International Open. 2018; 6(3): E322-E334	Original Article

18件

19	Sato Y, Hirakawa M, Ohnuma H, 他	消化器内科	A triplet combination with capecitabine/oxaliplatin/irinotecan (XELOXIR) plus cetuximab as first-line therapy for patients with metastatic colorectal cancer: a phase III randomised study.	Cancer Chemother Pharmacol. 2017; 80(6):1133-1139	Original Article
20	Kitamura S, Muguruma N, Okamoto K, 他	消化器内科	Clinicopathological Assessment of Gastric Xanthomas as Potential Predictive Markers of Gastric Cancer.	Digestion. 2017; 96(4): 199-206	Original Article
21	Okada Y, Kimura T, Nakagawa T, 他	消化器内科	EGFR Down-regulation After anti-EGFR Therapy Predicts the Anti-tumor Effect in Colorectal Cancer.	Mol Cancer Res. 2017; 15(10): 1445-1454	Original Article
22	Sogabe M, Okahisa T, Nakasono M, 他	消化器内科	The differing influence of several factors on the development of fatty liver with elevation of liver enzymes between genders with metabolic syndrome: A cross-sectional study.	PLoS One. 2017; 12(6): e0177925 2017 Jun 2	Original Article
23	Muguruma N, Okamoto K, Nakagawa T, 他	消化器内科	Molecular imaging of aberrant crypt foci in the human colon targeting glutathione S-transferase P1-1.	Scientific Reports. 2017;7(1):6536 Jul 26	Original Article
24	Sato Y, Ohnuma H, Nobuoka T, 他	消化器内科	Conversion therapy for inoperable advanced gastric cancer patients by docetaxel, cisplatin, and S-1 (DCS) chemotherapy: a multi-institutional retrospective study.	Gastric Cancer. 2017; 20(3): 517-526 2017 May	Original Article
25	Taniguchi T, Kishi K, Nakagawa T, 他	消化器内科	Poly-(ADP-Ribose) Polymerase-1 Promotes Prothrombin Gene Transcription and Produces Des-Gamma-Carboxy Prothrombin in Hepatocellular Carcinoma.	Digestion. 2017; 95(3): 242-251 2017 Apr 7	Original Article
26	Kitamura S, Tanahashi T, Aoyagi E, 他	消化器内科	Response Predictors to S-1, cisplatin, and docetaxel combination chemotherapy for metastatic gastric cancer: microarray analysis of whole human genes.	Oncology. 2017 ;93(2): 127-135	Original Article
27	Okamoto K, Muguruma N, Kagemoto K, 他	消化器内科	Efficacy of hybrid endoscopic submucosal dissection (ESD) as a rescue treatment in difficult colorectal ESD cases.	Digestive Endoscopy. 2017; 29 (Suppl. 2): 45-52	Review
28	Okazaki J, Muguruma N, Kitamura S, 他	消化器内科	Paraneoplastic hypocalcemia developed in gastric cancer accompanied by osteoblastic metastasis.	Internal Medicine. 2017; 56(11):1345-1349	Case report
29	Takehara M, Muguruma N, Kitamura S, 他	消化器内科	Twin Rectal Tonsils Mimicking Carcinoid or Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma.	Clin Endosc. 2017; 50(5): 500-503 2017 Sep	Case report
30	Teramae S, Okamoto K, Tanaka K, 他	消化器内科	Duodenal cancer in a young patient with Peutz-Jeghers syndrome harboring an entire deletion of the STK11 gene.	Clin J Gastroenterol. 2017;10(3):232-239 2017 Jun	Case report
31	Nagai K, Matsuura M, Tsuchida K, 他	腎臓内科(検査部)	Prognostic factors for mortality in middle-aged and older hemodialysis patients: a 5-year observational study.	J Artif Organs. 2018 Mar;21(1):94-101.	Original Article
32	Nagai K, Kishi J, Morizumi S, 他	腎臓内科(検査部)	Henoch-Schönlein purpura nephritis occurring postpartum in a patient with anti-PL-7 anti-synthetase syndrome.	Mod Rheumatol. 2017 Sep;27(5):910-913.	Case report
33	Nagai K, Tsuchida K, Ishihara N, 他	腎臓内科(検査部)	Implications of Albumin Leakage for Survival in Maintenance Hemodialysis Patients: A 7-year Observational Study.	Ther Apher Dial. 2017 Aug;21(4):378-386.	Original Article
34	Ono H, Nagai K, Shibata E, 他	腎臓内科	The recognition of age-dependent reference range for the serum creatinine level in teenagers-A case of slowly progressive tubulointerstitial nephritis which occurred in an adolescent.	Intern Med. 2017 Aug 15;56(16):2187-2193.	Case report
35	Ono H, Murakami T, Mima A, 他	腎臓内科	Successful treatment of highly advanced immunoglobulin G4-related kidney disease presenting renal mass-like regions with end-stage kidney failure: a case study.	BMC Nephrol. 2017 Aug 3;18(1):261.	Case report
36	Obata F, Murakami T, Miyagi J, 他	腎臓内科	A case of rapid amelioration of hepatitis C virus-associated cryoglobulinemic membranoproliferative glomerulonephritis treated by interferon-free directly acting antivirals for HCV in the absence of immunosuppressants.	CEN Case Rep. 2017 May;6(1):55-60.	Case report
37	Nagai K, Tsuchida K, Ishihara N, 他	腎臓内科(検査部)	Implications of Albumin Leakage for Survival in Maintenance Hemodialysis Patients: A 7-year Observational Study.	Ther Apher Dial. 2017 Aug;21(4):378-386.	Original Article
38	Kurahashi K, Endo I, Kondo T, 他	内分泌・代謝内科	Remarkable Shrinkage of a Growth Hormone (GH)-secreting Macroadenoma Induced by Somatostatin Analogue Administration: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2017 Sep 15;56(18):2455-2461.	Case report
39	Kurahashi K, Inoue S, Yoshida S, 他	内分泌・代謝内科	The Role of Heparin Cofactor II in the Regulation of Insulin Sensitivity and Maintenance of Glucose Homeostasis in Humans and Mice.	J Atheroscler Thromb. 2017 Dec 1;24(12):1215-1230.	Original Article

40	Kuroda A, Taniguchi S, Akehi Y, 他	内分泌・代謝内科(糖尿病臨床・研究開発センター)	Accuracy and Time Delay of Glucose Measurements of Continuous Glucose Monitoring and Bedside Artificial Pancreas During Hyperglycemic and Euglycemic Hypoglycemic Glucose Clamp Study	J Diabetes Sci Technol. 2017 Nov;11(6):1096-1100.	Original Article
41	Kuroda A, Isurou M, Aki N, Kondo T, Oguro Y, Tamaki M, Aihara K, Endo I	内分泌・代謝内科(糖尿病臨床・研究開発センター)	A pilot study comparing the CGM-assessed glycemic profiles of patients with type 1 diabetes on insulin degludec and insulin glargine.	Diabetol Int (2017) 8:112-115	Original Article
42	Kawatani Y, Kurobe H, Nakamura Y, 他	心臓血管外科	Aortic rupture due to radiation injury successfully treated with thoracic endovascular aortic repair.	J Surg Case Rep. 2017 May 23;2017(5):rjx092. doi: 10.1093/jscr/rjx092. eCollection 2017 May	Original Article
43	Kawatani Y, Kurobe H, Nakamura Y, 他	心臓血管外科	The ratio of contrast medium volume to estimated glomerular filtration rate as a predictor of contrast-induced nephropathy after endovascular aortic repair.	J Med Invest. 2018;65(1.2):116-121. doi: 10.2152/jmi.65.116	Original Article
44	Yoshida T, Furukita Y, Yamamoto Y, 他	食道・乳腺甲状腺外科	A randomized, open label study of the efficacy of prophylactic 24-h low-dose landiolol for atrial fibrillation in transthoracic esophagectomy	Esophagus 2017 ; 14(1) : 97-103	Original Article
45	Kajiura K, Masuda K, Naruto T, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Frequent silencing of the candidate tumor suppressor TRIM58 by promoter methylation in early-stage lung adenocarcinoma	Oncotarget 2017 ; 8(2) : 2890-2905	Original Article
46	Nishino T, Yoshida T, Inoue S, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Gender differences in clinicopathological features and prognosis of squamous cell carcinoma of the esophagus	Esophagus 2017 ; 14(2) : 122-130	Original Article
47	Nishino T, Yoshida T, Goto M, 他	食道・乳腺甲状腺外科	The effects of the herbal medicine Daikenchuto (TJ-100) after esophageal cancer resection, open-label, randomized controlled trial	Esophagus. 2018 Apr;15(2):75-82	Original Article
48	Takizawa H, Kondo K, Kawakita N, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Autofluorescence for the diagnosis of visceral pleural invasion in non-small-cell lung cancer	Eur J Cardiothorac Surg. 2018 May 1;53(5):987-992	Original Article
49	Kajiura K, Takizawa H, Morimoto, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Frequent silencing of RASSF1A by DNA methylation in thymic neuroendocrine tumours	Lung Cancer. 2017 Sep;111:116-123	Original Article
50	Goto M, Yoshida T, Yamamoto Y, 他	食道・乳腺甲状腺外科	CXCR4 Expression is Associated with Poor Prognosis in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma	Ann Surg Oncol. 2017 Mar;24(3):832-840	Original Article
51	Yoshida M, Oishi H, Martinu T, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Pentraxin 3 deficiency enhances features of chronic rejection in a mouse orthotopic lung transplantation model	Oncotarget. 2018 Jan 3;9(9):8489-8501	Original Article
52	Tsuboi M, Takizawa H, Aoyama M, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Surgical treatment of locally advanced papillary thyroid carcinoma after response to lenvatinib : A case report	Int J Surg Case Rep. 2017;41:89-92	Case report
53	Aoyama M, Takizawa H, Tsuboi M, 他	食道・乳腺甲状腺外科	A case of metastatic follicular thyroid carcinoma complicated with Graves' disease after total thyroidectomy	Endocr J. 2017 Dec 28;64(12):1143-1147	Case report
54	Kawakita N, Kondo K, Toba H, 他	食道・乳腺甲状腺外科	A case of atypical type A thymoma with vascular invasion and lung metastasis	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Apr;66(4):239-242	Case report
55	Shintani T, Kusuhara Y, Daizumoto K, 他	泌尿器科	The involvement of Hepatocyte Growth Factor-MET-Matrix Metalloproteinase 1 Signaling in Bladder Cancer Invasiveness and Proliferation. Effect of the MET Inhibitor, Cabozantinib (XL184), on Bladder Cancer	Urology. 2017 Mar;101:169.e7-169.e13.	Original Article
56	Mori H, Fukumori T, Daizumoto K, 他	泌尿器科	Predictive Factors for Prolonged Urination Disorder After Permanent 125I Brachytherapy for Localized Prostate Cancer.	In Vivo. 2017 Jul-Aug;31(4):755-761.	Original Article
57	Imura S	消化器・移植外科	miR-223 and Stathmin-1 Expression in Non-tumor Liver Tissue of Patients with Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer Research. 2017 Oct;37(10):5877-5883.	Original Article
58	Morine Y	消化器・移植外科	Effect of Adjuvant Gemcitabine Combined with Low-dose 5-Fluorouracil and Cisplatin Chemotherapy for Advanced Biliary Carcinoma.	Anticancer Research. 2017 Nov;37(11):6421-6428.	Original Article
59	Morine Y	消化器・移植外科	CD44 Expression Is a Prognostic Factor in Patients with Intrahepatic Cholangiocarcinoma After Surgical Resection.	Anticancer Research. 2017 Oct;37(10):5701-5705.	Original Article
60	Morine Y	消化器・移植外科	Accurate Estimation of Functional Liver Volume Using Gd-EOB-DTPA MRI Compared to MDCT/99mTc-SPECT Fusion Imaging.	Anticancer Research. 2017 Oct;37(10):5693-5700.	Original Article

61	Ikemoto T	消化器・移植外科	Pathophysiology of recurrent hepatocellular carcinoma after radiofrequency ablation.	Hepatology Research. 2017 Jan;47(1):23-30.	Original Article
62	Kawashita Y	消化器・移植外科	Loss of Fbxw7 expression is a predictor of recurrence in colorectal liver metastasis.	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences. 2017 Oct;24(10):576-583.	Original Article
63	Saito Y	消化器・移植外科	Mechanism of impairment on liver regeneration in elderly patients: Role of hepatic stellate cell function.	Hepatology Research. 2017 May;47(6):505-513.	Original Article
64	Yamada S	消化器・移植外科	Effective stepwise training and procedure standardization for young surgeons to perform laparoscopic left hepatectomy.	Surgical Endoscopy 2017 31: 2623-2629	Original Article
65	Yoshikawa M	消化器・移植外科	Elevated Preoperative Serum CEA Level Is Associated with Poor Prognosis in Patients with Hepatocellular Carcinoma Through the Epithelial-Mesenchymal Transition.	Anticancer Research. 2017 Mar;37(3):1169-1175.	Original Article
66	Yoshikawa M	消化器・移植外科	Aggressive resection of metachronous triple biliary cancer.	Journal of Medical Investigation. 2017;64(3.4):299-304.	Case report
67	Yoshimoto T	消化器・移植外科	Maximum Diameter and Number of Tumors as a New Prognostic Indicator of Colorectal Liver Metastases.	In Vivo. 2017 May-Jun;31(3):419-423.	Original Article
68	Yoshimoto T	消化器・移植外科	A case of low-grade appendiceal mucinous neoplasm with invagination resected laparoscopically.	Int Canc Conf J. 6(3); 109-113, 2017	Case report
69	M.Davaadorj	消化器・移植外科	Loss of Secreted Frizzled-Related Protein-1 expression is associated with poor prognosis in intrahepatic cholangiocarcinoma.	European Journal of Surgical Oncology. 2017 Feb;43(2):344-350	Original Article
70	Tokunaga T	消化器・移植外科	Feasibility of Transanal Local Excision Following Chemoradiation for Lower Rectal Cancer.	Anticancer Research. 37(10):5617-5622, 2017	Original Article
71	Nishi M	消化器・移植外科	High STAT4 Expression Indicates Better Disease-free Survival in Patients with Gastric Cancer.	Anticancer Research. 37(12):6723-6729, 2017	Original Article
72	Kashihara H	消化器・移植外科	Correlation Between Thrombospondin-1 Expression in Non-cancer Tissue and Gastric Carcinogenesis.	Anticancer Research. 37(7):3547-3552, 2017	Original Article
73	Kashihara H	消化器・移植外科	Risk factors for recurrence of gastric cancer after curative laparoscopic gastrectomy.	Journal of Medical Investigation.64(1.2):79-84, 2017	Original Article
74	Kashihara H	消化器・移植外科	Duodenal-jejunal bypass changes the composition of the gut microbiota.	Surgery Today. 2017 Jan;47(1):137-140.	Original Article
75	Takasu C	消化器・移植外科	Treatment with dimethyl fumarate ameliorates liver ischemia/reperfusion injury.	World Journal of Gastroenterology. 23(25):4508-4516, 2017	Original Article
76	Takasu C	消化器・移植外科	TU-100 exerts a protective effect against bacterial translocation by maintaining the tight junction.	Surgery Today. 2017 Oct;47(10):1287-1294.	Original Article
77	Ishibashi H	消化器・移植外科	Japanese clinical practice guidelines for congenital biliary dilatation	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences 24(1); 1-16, 2017	Original Article
78	Akaiwa K, Namekata K, Azuchi Y, 他	眼科	Edaravone suppresses retinal ganglion cell death in a mouse model of normal tension glaucoma.	Cell Death Dis,2017 Jul 13;8(7)	Original Article
79	Niki M, Nakajima K, Ishikawa D, 他	眼科	MicroRNA-449a deficiency promotes colon carcinogenesis.	Sci Rep,2017 Sep 6;7(1)	Original Article
80	Kondo E, Jinnouchi O, Nakano S, 他	耳鼻咽喉科	Oral stimulation with capsaicin ointment improved swallowing function in elderly patients with dysphagia: a randomized, placebo-controlled, double-blind, comparative study.	Clin Interv Aging. 2017 Nov 13;12:1921-1928.	Original Article
81	Sakai T, Tezuka F, Yamashita K, 他	整形外科	Conservative Treatment for Bony Healing in Pediatric Lumbar Spondylolysis.	Spine (Phila Pa 1976). 2017 Jun 15;vol.42 No.12:E716-720	Original Article

82	Sakai T, Sairyō K.	整形外科	Answer to the Letter to the Editor of C. Birkenmaier concerning "Rehydration of a degenerated disc on MRI synchronized with transition of Modic changes following standard signal intensity changes of the posterior elements of the lumbar spine in symptomatic adults"	Eur Spine J.2017 Jun;Vol.26 No.6: 1790-1791	Original Article
83	Sugiura,K, Sakai T, Tezuka F, 他	整形外科		Spine Surg Relat Res.2017;vol.1No.3:140-145	Original Article
84	Tezuka F, Sairyō K, Sakai T, 他	整形外科	Etiology of Adult-onset Stress Fracture in the Lumbar Spine.	Clin Spine Surg.2017;vol.30 No.3:E223-E238	Original Article
85	Tezuka F, Sakai T, Abe M, 他	整形外科	Anatomical considerations of the iliac crest on percutaneous endoscopic discectomy using a transforaminal approach.	Spine J. 2017Dec;vol.17 No.12:1875-1880	Original Article
86	Sakai T, Tezuka F, Abe M, 他	整形外科	Pediatric Patient with Incidental Os Odontoideum Safely Treated with Posterior Fixation Using Rod-Hook System and Preoperative Planning Using 3D Printer: A Case Report.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2017May;vol.78 No.3:306-309	Case report
87	Sairyō K, Higashino K, Yamashita K, 他	整形外科	A new concept of transforaminal ventral facetectomy including simultaneous decompression of foraminal and lateral recess stenosis: Technical considerations in a fresh cadaver model and a literature review.	J Med Invest. 2017;Vol.64 No.1.2:1-6	Review
88	Miyagi R, Nishisho T, Takata S, 他	整形外科	Atypical Lipomatous Tumor/Well-Differentiated Liposarcoma Developed in a Patient with Progressive Muscular Dystrophy: A Case Report and Review of the Literature.	Case Rep Orthop. Epub 2017 May 29. (オンライン)	Original Article
89	Wada K, Hashimoto T, Miyagi R, 他	整形外科	Diffusion tensor imaging and tractography of the sciatic nerve: assessment of fractional anisotropy and apparent diffusion coefficient values relative to the piriformis muscle, a preliminary study.	Skeletal Radiol. 2017Mar;Vol.46 No.3:309-314	Original Article
90	Nishisho T, Sakaki M, Miyagi R, 他	整形外科	Burned-out seminoma revealed by solitary rib bone metastasis.	Skeletal Radiol. 2017Oct;Vol.46 No.10:1415-1420	Original Article
91	Toki S, Nishisho T, Takao S, 他	整形外科	Fibroma of tendon sheath on the medial side of the knee: a case report.	J Med Invest. 2017;Vol.64 No.1.2:173-176	Case report
92	Goto T, Sakai T, Enishi T, 他	整形外科	Changes of posture and muscle activities in the trunk and legs during walking in patients with lumbar spinal stenosis after decompression surgery. A preliminary report.	Gait Posture.2017Jan;Vol.51:149-152	Original Article
93	Iwame T, Matsuura T, Suzue N, 他	整形外科	Two year follow up study of subchondral surface irregularities of the capitellum on ultrasonography in baseball players under the age of 10 years.	Skeletal Radiol.2017Nov;Vol.46 No.11:1499-1505	Original Article
94	Matsuura T, Iwame T, Suzue N, 他	整形外科	Clinical Outcome of Arthroscopic Treatment for Posteromedial Elbow Impingement in Adolescent Baseball Players.	Arthroscopy.2018Jan;Vol.34 No.1:105-110	Original Article
95	Matsuura T, Iwame T, Suzue N, 他	整形外科	Risk factors for shoulder and elbow pain in youth baseball players.	Phys Sportsmed.2017May;Vol.45 No.2:140-144	Original Article
96	Matsuura T, Wada K, Suzue N, 他	整形外科	Bilateral Osteochondritis Dissecans of the Capitellum in Fraternal Twins: A Case Report.	JBJS Case Connect. 2017Jul-Sep;Vol.7 No.3:e44	Case report
97	Wada K, Goto T, Tezuka F, 他	整形外科	variations in the obturator artery around the obturator foramen assessed by three-dimensional computed tomographic angiography and prevention of vascular-injury of Medial collateral ligament.	Int Orthop.2017Jan;Vol.41 No.1:133-139	Original Article
98	Wada K, Hamada D, Tamaki S, 他	整形外科	Release for Internal Rotation of Tibia in Posterior-Stabilized Total Knee Arthroplasty: A Cadaveric Study.	J Arthroplasty. 2017Jan;Vol.32 No.1:270-273	Original Article
99	Wada K, Mikami H, Oba K, 他	整形外科	Cementless calcar-replacement stem with integrated greater trochanter plate for unstable intertrochanteric fracture in very elderly patients.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2017Jan;Vol.25 No.1	Original Article
100	Wada K, Goto T, Takasago T, 他	整形外科	Piriformis muscle syndrome with assessment of sciatic nerve using diffusion tensor imaging and tractography:a case report.	Skeletal Radiol. 2017Oct;Vol.46 No.10:1399-1404	Case report
101	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	Comparison of Ankle Joint Visualization Between the 70° and 30° Arthroscopes: A Cadaveric Study.	Foot Ankle Spec. 2018Feb;Vol.11 No.1:72-76	Original Article
102	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	Distance Between the Anterior Distal Tibial Edge and the Anterior Tibial Artery in Distraction and Nondistraction During Anterior Ankle Arthroscopy: A Cadaveric Study.	Foot Ankle Int. 2018Jan;Vol.39 No.1:113-118	Original Article

103	Tonogai I, Nishisho T, Miyagi R, 他	整形外科	Total calcaneotomy for metastasis of renal cell carcinoma in the calcaneus: A case report.	Foot Ankle Surg.2018Feb;vol.24 No.1:e7-e12	Case report
104	Tonogai I, Hamada D, Sairyo K.	整形外科	the ankle joint immediately after primary total knee arthroplasty for varus knee osteoarthritis.	The Foot and Ankle Online Journal.2017;Vol.10 No.2-2	Original Article
105	Tonogai I, Hamada D, Sairyo K.	整形外科	Morphology of the Incisura Fibularis at the Distal Tibiofibular Syndesmosis in the Japanese Population.	J Foot Ankle Surg.2017Nov;Vol.56 No.6:1147-1150	Original Article
106	Tonogai I, Hamada D, Yamasaki Y, 他	整形外科	Custom-Made Alumina Ceramic Total Talar Prosthesis for Idiopathic Aseptic Necrosis of the Talus: Report of Two Cases.	Case Rep Orthop. Epub 2017 May 29. (オンライン)	Original Article
107	Tonogai I, Matsuura T, Iwame T, 他	整形外科	Pseudoaneurysm of the Anterior Tibial Artery following Ankle Arthroscopy in a Soccer Player.	Case Rep Orthop. Epub 2017 May 18. (オンライン)	Original Article
108	Tonogai I, Hayashi F, Tsuruo Y, 他	整形外科	Anatomic Study of Anterior and Posterior Ankle Portal Sites for Ankle Arthroscopy in Plantarflexion and Dorsiflexion: A Cadaveric Study in the Japanese Population.	J Foot Ankle Surg.2018May-Jun;Vol.57 No.3:537-542	Original Article
109	Tonogai I, Sairyo K.	整形外科	Psychogenic Equinovarus Caused by Dislocation of the Chopart Joint Complex.	Case Rep Orthop. 2018 May 3. eCollection 2018. (オンライン)	Original Article
110	Yamashita K, Higashino K, Hayashi H, 他	整形外科	Pulsation and Collimation During Fluoroscopy to Decrease Radiation: A Cadaver Study	JBJS Open Access.2017Dec28;Vol.2 No.4:e0039	Original Article
111	Yamashita K, Sakai T, Takata Y, 他	整形外科	Utility of STIR-MRI in Detecting the Pain Generator in Asymmetric Bilateral Pars Fracture: A Report of 5 Cases.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2018Feb15;Vol.58 No.2:91-95	Original Article
112	Yamashita K, Higashino K, Sakai T, 他	整形外科	Percutaneous lumbar endoscopic lumbar foraminoplasty for adjacent level foraminal stenosis following vertebral intersegmental fusion in an awake and aware patient under local anesthesia: A case report	J Med Invest. 2017;Vol.64 No.3.4:291-295	Case report
113	Yamashita K, Higashino K, Sakai T, 他	整形外科	The reduction and direct repair of isthmic spondylolisthesis using the smiley face rod method in adolescent athlete: Technical note.	J Med Invest. 2017;Vol.64 No.1.2:168-172	Original Article
114	Yamashita K, Higashino K, Sakai T, 他	整形外科	Natural Correction and Adaptation of a Severely Deformed Sacral Dome in an Adolescent with Isthmic Spondylolisthesis: A Case Report.	JBJS Case Connect.2017Apr-Jun;Vol.7 No.2:e26	Case report
115	Yamashita K, Ikuma H, Tokashiki T, 他	整形外科	Radiation Exposure to the Hand of a Spinal Interventionalist during Fluoroscopically Guided Procedures.	Asian Spine J.2017Feb;Vol.11 No.1:75-81	Original Article
116	Hamada D, Wada K, Mikami H, 他	整形外科	The Posterior Condylar Cartilage Affects Rotational Alignment of the Femoral Component in Varus Knee Osteoarthritis.	J Med Invest. 2017;Vol.64 No.1.2:24-29	Original Article
117	Manabe H, Higashino K, Sugiura K.	整形外科	A Rare Case of Progressive Palsy of the Lower Leg during Percutaneous Endoscopic Lumbar Discectomy via a Transforaminal Approach.	Case Rep Orthop;2018Jan31	Original Article
118	Wada K, Mikami H, Hamada D, 他	整形外科	Can intraoperative kinematic analysis predict postoperative kinematics following total knee arthroplasty? A preliminary.	J Med Invest. 2017;Vol.65 No.1.2:21-26	Original Article
119	Sairyo K, Chikawa T, Nagamachi A.	整形外科	State-of-the-art transforaminal percutaneous endoscopic lumbar surgery under local anesthesia: Discectomy, foraminoplasty, and ventral facetectomy.	J Orthop Sci. 2018Mar;Vol.23 No.2:229-236	Original Article
120	Fukui N.	皮膚科	Case of papular acantholytic dyskeratosis of the genital area successfully treated with topical vitamin D3 ointment	J. Dermatol. 2017 May; 44: 599-600	Letter
121	Matsudate Y.	皮膚科	Chemotherapy-induced inflammation of seborrheic keratoses due to pemetrexed treatment	J. Dermatol. 2017 May; 44: 602-603	Letter
122	Matsudate Y.	皮膚科	Targeted exome sequencing and chromosomal microarray for the molecular diagnosis of nevoid basal cell carcinoma syndrome	J. Dermatol. Sci. 2017 May; 86: 206-211	Original Article
123	Hida T.	皮膚科	Bilateral leg ulcers secondary to dystrophic calcinosis in a patient with rheumatoid arthritis	J. Med. Invest. 2017 Aug; 64: 308-310	Case report

124	Matsudate Y.	皮膚科	Grover's disease in a patient with pemphigus vulgaris	Int. J. Dermatol. 2017 Oct; 56: 1052-1054	Case report
125	Sakai Y	麻酔科	Noninvasive continuous blood pressure monitoring by the ClearSight system during robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy.	J Med Invest.2018;Vol.65 No.65:69-73	Original Article
126	Kakuta N	麻酔科	Effectiveness of using non-invasive continuous arterial pressure monitoring with ClearSight in hemodynamic monitoring during living renal transplantation in a recipient	J Med Invest.2018;Vol.65:139-141	Original Article
127	Murakami C	麻酔科	A comparison of fosaprepitant and ondansetron for preventing postoperative nausea and vomiting in moderate to high risk patients: A retrospective database analysis.	BioMed Res Int.2017;Vol.5703528	Original Article
128	Satomi S	麻酔科	Normothermic Cardiopulmonary Bypass in Patient With Waldenström's Macroglobulinemia and Cryoglobulinemia: A Case Report.	A&A Case Reports.2017;Vol.9 No.6:162-163	Case report
129	Tsutsumi Y	麻酔科	Effect of oral carbohydrate with amino acid solution on serum oxidative/anti-oxidative status in healthy volunteers.	Journal of Anesthesia.2017;Vol.31 No.3:472-475	Original Article
130	Mita N	麻酔科	Strict blood glucose control by an artificial endocrine pancreas during hepatectomy may prevent postoperative acute kidney injury.	The Journal of Artificial Organs.2017;Vol.20 No.1:76-83	Original Article
131	Kawahito S	麻酔科	Successful treatment of mixed (mainly cancer) pain by tramadol preparations	The Journal of Medical Investigation.2017Aug;Vol.64 No.3,4	Original Article
132	Tomioka Y, Numata S, Kinoshita M, 他	精神科神経科	Decreased serum pyridoxal levels in schizophrenia: meta-analysis and Mendelian randomization analysis.	J Psychiatry Neurosci. 2018 Feb 2;43(2):170053.	Original Article
133	Hamatani S, Tomotake M, Takeda T, 他	精神科神経科	Impaired central coherence in patients with anorexia nervosa.	Psychiatry Res. 2018 Jan;259:77-80.	Original Article
134	Umehara H, Numata S, Watanabe SY, 他	精神科神経科	Altered KYN/TRP, Gln/Glu, and Met/methionine sulfoxide ratios in the blood plasma of medication-free patients with major depressive disorder.	Sci Rep. 2017 Jul 7;7(1):4855.	Original Article
135	Nishi A, Numata S, Tajima A, 他	精神科神経科	De novo non-synonymous TBL1XR1 mutation alters Wnt signaling activity.	Sci Rep. 2017 Jun 6;7(1):2887.	Original Article
136	Hamatani S, Tomotake M, Takeda T, 他	精神科神経科	Influence of cognitive function on quality of life in anorexia nervosa patients.	Psychiatry Clin Neurosci. 2017 May;71(5):328-335.	Original Article
137	Urushihara M, Kagami S.	小児科	Role of the intrarenal renin-angiotensin system in the progression of renal disease.	Pediatr Nephrol. 2017 Sep;32(9):1471-1479.	Review
138	Tokaji N, Ito H, Kohmoto T, 他	小児科	A rare male patient with classic Rett syndrome caused by MeCP2_e1 mutation.	Am J Med Genet A. 2018 Mar;176(3):699-702.	Case report
139	Hayabuchi Y, Ono A, Homma Y, 他	小児科	Pulmonary annular motion velocity reflects right ventricular outflow tract function in children with surgically repaired congenital heart disease.	Heart Vessels. 2018 Mar;33(3):316-326.	Original Article
140	Okada A, Kohmoto T, Naruto T, 他	小児科	The first Japanese patient with mandibular hypoplasia, deafness, progeroid features and lipodystrophy diagnosed via POLD1 mutation detection.	Hum Genome Var. 2017 Aug 3;4:17031.	Case report
141	Hayabuchi Y, Ono A, Homma Y, 他	小児科	Assessment of pulmonary arterial compliance evaluated using harmonic oscillator kinematics.	Pulm Circ. 2017 Jul-Sep;7(3):666-673.	Original Article
142	Hayabuchi Y, Ono A, Homma Y, 他	小児科	Temporal Sequential Pattern of Right Ventricular Free Wall Contraction in Normal Children.	Circ J. 2017 Oct 25;81(11):1699-1706.	Original Article
143	Ito H, Mori K, Harada M, 他	小児科	A 1H NMR Spectroscopic Study in Autism Spectrum Disorder Using a 3-Tesla Clinical Magnetic Resonance Imaging (MRI) System: The Anterior Cingulate Cortex and the Left Caudate.	J Child Neurol. 2017 Jul;32(8):731-739.	Original Article
144	Irahara M, Kuwahara A, Iwasa T, 他	産科婦人科	Assisted reproductive technology in Japan: a summary report of 1992-2014 by the Ethics Committee, Japan Society of Obstetrics and Gynecology.	R Reprod Med Biol. 2017 Apr 18;16(2):126-132	Original Article



145	Matsuzaki T, Tungalagsuvd A, Iwasa T, 他	産科婦人科	Clinical outcome of various metformin treatments for women with polycystic ovary syndrome.	Reprod Med Biol. 2017 Apr 4;16(2):179-187.	Original Article
146	Iwasa T, Matsuzaki T, Yano K, 他	産科婦人科	Gonadotropin-Inhibitory Hormone Plays Roles in Stress-Induced Reproductive Dysfunction.	Front Endocrinol (Lausanne). 2017 Apr 5;8:62.	Original Article
147	Matsuzaki T, Munkhzaya M, Iwasa T, 他	産科婦人科	Relationship between serum anti-Mullerian hormone and clinical parameters in polycystic ovary syndrome.	Endocr J. 2017 May 30;64(5):531-541.	Original Article
148	Kawakita T, Masato N, Takiguchi E, 他	産科婦人科	Cytotoxic effects of 15-deoxy- $\Delta$ 12,14-prostaglandin J2 alone and in combination with dasatinib against uterine sarcoma in vitro.	Exp Ther Med. 2017 Jun;13(6):2939-2945.	Original Article
149	Iwasa T, Matsuzaki T, Yano K, 他	産科婦人科	The effects of prenatal undernutrition and a high-fat postnatal diet on central and peripheral orexigenic and anorexigenic factors in female rats. Endocr J.	Endocr J. 2017 Jun 29;64(6):597-604.	Original Article
150	Irahara M, Kimura T, Sugino H.	産科婦人科	Japan Society for Reproductive Medicine RMB Best Paper Award.	Reprod Med Biol. 2017 Jul 11;16(3):239.	Others
151	Iwasa T, Matsuzaki T, Yano K, 他	産科婦人科	The effects of chronic testosterone administration on body weight, food intake, and adipose tissue are changed by estrogen treatment in female rats.	Horm Behav. 2017 Jul;93:53-61.	Original Article
152	Matsuzaki T, Douchi T, Oki T, 他	産科婦人科	Weight reduction using a formula diet recovers menstruation in obese patients with an ovulatory disorder.	Reprod Med Biol. 2017 Jul 7;16(3):268-275.	Original Article
153	Matsuzaki T, Munkhzaya M, Tungalagsuvd A, 他	産科婦人科	Prenatal undernutrition disrupted the sexual maturation, but not the sexual behavior, in male rats.	Reprod Med Biol. 2017 Sep 16;16(4):325-329.	Original Article
154	Iwasa T, Matsuzaki T, Yano K, 他	産科婦人科	The effects of ovariectomy and lifelong high-fat diet consumption on body weight, appetite, and lifespan in female rats.	Horm Behav. 2017 Oct 24;97:25-30.	Original Article
155	Iwasa T, Matsuzaki T, Yiliyasi M, 他	産科婦人科	The effects of chronic testosterone administration on body weight, food intake, and fat weight were age-dependent.	Steroids. 2017 Nov;127:18-23.	Original Article
156	Takiguchi E, Nishimura M, Minoda A, 他	産科婦人科	Growth inhibitory effect of the Src inhibitor dasatinib in combination with anticancer agents on uterine cervical adenocarcinoma cells.	Exp Ther Med. 2017 Nov;14(5):4293-4299.	Original Article
157	Iwasa T, Matsuzaki T, Mayila Y, 他	産科婦人科	Developmental changes in hypothalamic SF-1, POMC, and ER $\alpha$ mRNA expression and their sensitivity to fasting in male and female rats.	Endocr J. 2017 Dec 28;64(12):1157-1163.	Original Article
158	Iwasa T, Matsuzaki T, Yano K, 他	産科婦人科	Effects of dihydrotestosterone administration on the expression of reproductive and body weight regulatory factors in ovariectomized and estradiol-treated female rats.	Gynecol Endocrinol. 2018 Jan;34(1):73-77.	Original Article
159	Takao S, Kondo S, Ueno J, 他	放射線科	Deep multi-layered GMDH-type neural network using revised heuristic self-organization and its application to medical image diagnosis of liver cancer.	Artificial Life and Robotics • March 2018, Volume 23, Issue 1, pp 48-50	Original Article
160	Takeuchi M, Matsuzaki K, Tsuneyama K, 他	放射線科	Ovarian Large Cell Neuroendocrine Carcinoma Associated with Serous Carcinoma: Correlation of Pathology with MR Imaging.	Magn Reson Med Sci. 2017 Oct 10;16(4):273-274. doi: 10.2463/mrms.ci.2016-	Original Article
161	Takeuchi M, Matsuzaki K, Harada M.	放射線科	Evaluating Myometrial Invasion in Endometrial Cancer: Comparison of Reduced Field-of-view Diffusion-weighted Imaging and Dynamic Contrast-enhanced MR Imaging.	Magn Reson Med Sci. 2018 Jan 10;17(1):28-34. doi: 10.2463/mrms.mp.2016-	Original Article
162	Abe T, Kawarai T, Fujita K, 他	放射線科	MR Spectroscopy in Patients with Hereditary Diffuse Leukoencephalopathy with Spheroids and Asymptomatic Carriers of Colony-stimulating Factor 1 Receptor Mutation.	Magn Reson Med Sci. 2017 Oct 10;16(4):297-303. doi: 10.2463/mrms.mp.2016-	Original Article
163	Takao S, Nguyen TB, Yu HJ, 他	放射線科	T1rho and T2 relaxation times of the normal adult knee meniscus at 3T: analysis of zonal differences.	BMC Musculoskelet Disord. 2017 May 18;18(1):202. doi: 10.1186/s12891-017-	Original Article
164	Uyama N, Otsuka H, Shinya T, 他	放射線科	The utility of the combination of a SPECT study with [123I]-FP-CIT of dopamine transporters and [123I]-MIBG myocardial scintigraphy in differentiating Parkinson disease from other degenerative parkinsonian	Nucl Med Commun. 2017 Jun;38(6):487-492. doi: 10.1097/MNM.0000000000000674	Original Article
165	Kinoshita M, Shirono R, Takechi K, 他	放射線科	The Usefulness of Virtual Fluoroscopic Preprocedural Planning During Percutaneous Transhepatic Biliary Drainage.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2017 Jun;40(6):894-90. doi: 10.1007/s00270-017-	Original Article

166	Hosokawa Y, Hosokawa I, Shindo S, 他	むし歯科	IL-29 Enhances CXCL10 Production in TNF-alpha-stimulated Human Oral Epithelial Cells	Immunological Investigation. 2017 Aug; 46(6): 615-624	Original Article
167	Hosokawa Y, Hosokawa I, Ozaki K, 他	むし歯科	IL-27 Modulates Chemokine Production in TNF-alpha -stimulated Human Oral Epithelial Cells	Cellular Physiology and Biochemistry. 2017 Oct; 43(3): 1198-1206	Original Article
168	Naruishi K, Nishikawa Y, Kido J, 他	歯周病科	Relationship of aspiration pneumonia to cognitive impairment and oral condition: a cross-sectional study.	Clinical Oral Investigations ,2018 Jan 31	Original Article
169	Naruishi K, Nishikawa Y	歯周病科	Swallowing impairment is a significant factor for predicting life prognosis of elderly at the end of life	Aging Clinical and Experimental Research ,2018;Vol.30, No.1, 77-80	Original Article
170	Mihara-Wada C, Seto H, Ohba H, 他	歯周病科	Local administration of calcitonin inhibits alveolar bone loss in an experimental periodontitis in rats.	Biomedicine & Pharmacotherapy,2018; Vol.97, No.1, 765-770	Original Article
171	Hiroshima Y, Sakamoto E, Yoshida K, 他	歯周病科	Advanced glycation end-products and Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide increase calprotectin expression in human gingival epithelial cells	Journal of Cellular Biochemistry ,2018, Vol.119, No.2, 1591-1603	Original Article
172	Kajiura Y, Nishikawa Y, Hwan Jung Lew, 他	歯周病科	b-carotene suppresses Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide-mediated cytokine production in THP-1 monocytes cultured with high glucose condition.	Cell Biology International,2018; Vol.42, No.1, 105-111	Original Article
173	Kuwamura Y, Sumikawa M, Sakamoto E, 他	歯周病科	The utilization of the Diabetes Oral Health Assessment Tool© for Nurses by Diabetes Nurse Specialists	JN1 : The Journal of Nursing Investigation,2018; Vol.15, No.1, 2, 1-10	Original Article
174	Sekita Y, Murakami K, Yumoto H, 他	歯周病科	Anti-biofilm and anti-inflammatory activities of Houltuynia cordata decoction for oral care	Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine 2017: Article ID	Original Article
175	Susilowati H, Murakami K, Yumoto H, 他	歯周病科	Royal jelly inhibits Pseudomonas aeruginosa adherence and reduces excessive inflammatory responses in human epithelial cells	BioMed Research International,2017; Article ID 3191752	Original Article
176	Fujiwara N, Murakami K, Nakao M, 他	歯周病科	Novel Reuterin-Related Compounds suppress odour by periodontopathic bacteria	Oral Diseases,2017; Vol. 23, 492-497	Original Article
177	Murakami K, Yumoto H, Murakami A, 他	歯周病科	Evaluation of the effectiveness of the potent bis-quaternary ammonium compound, 4,4'-(alpha,omega-hexamethylenedithio) bis(1-octylpyridinium bromide) (4DTBP-6,8) on Pseudomonas aeruginosa	Journal of Applied Microbiology,2017; Vol. 122, 893-899	Original Article
178	Fujiwara N, Murakami K, Nakao M, 他	歯周病科	Antibacterial and antibiofilm effects of Reuterin-Related Compounds to periodontopathic bacteria	Journal of Oral Health and Biosciences,2017; Vol. 30, No. 1, 8-17	Original Article
179	Kido J, Murakami S, Kitamura M, 他	歯周病科	Useful Immunochromatographic Assay of Calprotectin in Gingival Crevicular Fluid for Diagnosis of Diseased Sites in Patients with Periodontal Diseases.	Journal of Periodontology,2017; 1-19	Original Article
180	Naruishi K	歯周病科	Association between Oral Conditions and Returning Home after Discharge in Elderly Patients	Geriatrics,2017; Vol.2, No.3, 28	Original Article
181	Kajiura Y, Hwan Jung Lew, Ikuta T, 他	歯周病科	Clinical Significance of GCF sIL-6R and Calprotectin to Evaluate the Periodontal Inflammation	Annals of Clinical Biochemistry,2017; Vol.54, No.6, 664-670	Original Article
182	Nishikawa Y, Kajiura Y, Hwan Jung Lew, 他	歯周病科	Calprotectin Induces IL-6 and MCP-1 Production via Toll-Like Receptor 4 Signaling in Human Gingival Fibroblasts	Journal of Cellular Physiology,2017; Vol.232, No.7, 1862-1871	Original Article
183	Naruishi K, Nishikawa Y	歯周病科	Crosstalk of Gingival Fibroblasts and Macrophages in Inflammatory Cytokine Cascade: Potential Mechanisms of Periodontitis	Journal of Cell Signaling,2017 Jun ; Vol.2, No.2, e149	Review
184	Kuroda S, Inoue M, Kyung H-M, 他	矯正歯科	Stress distribution in obliquely inserted orthodontic miniscrews evaluated by three-dimensional finite-element analysis	International Journal of Oral Maxillofacial Implants. 2017 Mar/Apr; 32(2):344-349	Original Article
185	Mori H, Matsumoto K, Kawai N, 他	矯正歯科	Long-term follow-up of a patient with achondroplasia treated with orthodontic approach	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics. 2017 Apr; 151(4):793-	Case report
186	Bayarsaikhan Od, Kawai N, Mori H, 他	矯正歯科	Effects of co-transfection with myostatin-targeting siRNA and ActRIIB-Fc fusion protein on skeletal muscle growth	Journal of Oral Health and Biosciences. 2017 July; 30(1): 1-7,	Original Article

187	Tanaka E, El-Bialy T	矯正歯科	Beschleunigte Zahnbewegung durch LIPUS (Accelerated orthodontic tooth movement by a low-intensity pulsed ultrasound exposure)	Kieferorthopädie Nachrichten (Orthodontic News), Oemus Media AG, Leipzig, Germany, 2017	Original Article
188	Iwasa A, Horiuchi S, Kinouchi N, 他	矯正歯科	Skeletal anchorage for intrusion of bimaxillary molars in a patient with skeletal open bite and temporomandibular disorders	Journal of Orthodontic Science. 2017 Oct; 6(4):152-158,	Case report
189	Kinouchi N, Horiuchi S, Yasue A, 他	矯正歯科	Effectiveness of presurgical nasoalveolar molding therapy on unilateral nose deformity	Saudi Medical Journal. 2018 Feb; 39(2): 169-178.	Original Article
190	Shirai M, Kawai N, Hichijo N, 他	矯正歯科	Effects of chewing gum exercise on maximal bite force with different facial types.	Clinical and Experimental Dental Research, 2018 Feb 22;4(2):48-51	Original Article
191	Nakagawa H	小児歯科	Current Status of Care for Patients with Disabilities in Tokushima Prefecture and Future Perspectives	Journal of Oral Health and Biosciences. 2017. 6 ; 30 : 40-44	Review
192	Sugimoto A, Miyazaki A, Kawarabayashi K, 他	小児歯科	Piezo type mechanosensitive ion channel component 1 functions as a regulator of the cell fate determination of mesenchymal stem cells	Scientific Report. 2017.12 (オンライン)	Original Article
193	Iwamoto T, Nakamura T, Ishikawa M, 他	小児歯科	Pannexin 3 regulates proliferation and differentiation of odontoblasts via its hemichannel activities	PLoS ONE. 2017. 5. ; 12 : e0177557	Original Article
194	Takaishi K, Kawahito S, Fujiwara S, 他	歯科麻酔科	Nasotracheal intubation through pharyngeal flap after pharyngeal flap construction	Journal of Clinical Anesthesia, 2018 Feb; 44:121-122	Case report
195	Nishimura M	救急集中治療部	High-flow nasal cannula is superior to noninvasive ventilation to prevent reintubation?	Ann Transl Med. 2017;5(5):107	Review
196	Ueno Y	救急集中治療部	Electrical activity of the diaphragm during reverse triggering – a case report.	J Clin Case Rep. 2017; 7:6	Case report
197	Itagaki T	救急集中治療部	The effect of head rotation on efficiency of face mask ventilation in anaesthetised apnoeic adults: A randomised, crossover study.	Eur J Anaesthesiol. 2017 Jul;34(7):432-440	Original Article
198	Nakanishi N	救急集中治療部	Upper and lower limb muscle atrophy in critically ill patients: an observational ultrasonography study.	Intensive Care Med. 2018 Feb;44(2):26	Letter
199	Itagaki T	救急集中治療部	High-flow nasal cannula devices: noisier than we realize.	Respir Care. 2018; 63:371-372	Others
200	Tani K, Okura Y, Tabata R, 他	総合診療部	Characteristics of medical students who would like to be a generalist physician and contribute to remote area medicine	Journal of Medical Investigation. 2017 Aug; 64: 210-216	Original Article
201	Kuroda M, Sakaue H	栄養部	Adipocyte Death and Chronic Inflammation in Obesity	J Med Invest. 2017 Aug; 64(3.4):193-196	Review
202	Uebanso T, Kano S, Yoshimoto A, 他	栄養部	Effects of Consuming Xylitol on Gut Microbiota and Lipid Metabolism in Mice.	Nutrients. 2017 Jul (オンライン)	Original Article
203	Uebanso T, Ohnishi A, Kitayama R, 他	栄養部	Effects of Low-Dose Non-Caloric Sweetener Consumption on Gut Microbiota in Mice.	Nutrients. 2017 Jun (オンライン)	Original Article
204	Naoto Okada, Shinya Kobayashi, Kouta Moriyama, 他	薬剤部	Helianthus tuberosus (Jerusalem artichoke) tubers improve glucose tolerance and hepatic lipid profile in rats fed a high-fat diet	Asian Pacific Journal of Tropical Medicine. 2017May;10:439-443	Original Article
205	Yoshito Zamami, Masaki Imanishi, Kenshi Takechi, 他	薬剤部	Pharmacological approach for drug repositioning against cardiorenal diseases.	The Journal of Medical Investigation. 2017; 64:197-201	Original Article
206	Hirofumi Hamano, Yasumasa Ikeda, Hiroaki Watanabe, 他	薬剤部	The uremic toxin indoxyl sulfate interferes with iron metabolism by regulating hepcidin in chronic kidney disease	Nephrology Dialysis Transplantation. 2017Aug; 10:1093	Original Article
207	Natsuko Ise, Kenshi Takechi, Toshiko Miyamoto, 他	薬剤部	Pharmacy Students' Knowledge and Attitude toward Registration Trials and Clinical Research: A Survey in a Japanese University Hospital	Pharmacy. 2017Dec; 5: 67	Original Article

208	Takahiro Niimura, Yoshito Zamami, Toshihiro Koyama, 他	薬剤部	Hydrocortisone administration was associated with improved survival in Japanese patients with cardiac arrest	Scientific Reports.2017Dec; 7: 17919	Original Article
209	Naoto Okada, Momoyo Azuma, Masaki Imanishi, 他	薬剤部	Potential Usefulness of Early Potassium Supplementation for Preventing Severe Hypokalemia Induced by Liposomal Amphotericin B in Hematologic Patients: A Retrospective Study	Clinical Therapeutics. 2018Feb; 40: 252-260	Original Article
210	Takahiro Niimura, Yoshito Zamami, Toru Imai, 他	薬剤部	Evaluation of the Benefits of De-Escalation for Patients with Sepsis in the Emergency Intensive Care Unit	Journal of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences. 2018; 21: 54-59	Original Article
211	Takahiro Niimura, Yoshito Zamami, Toru Imai, 他	薬剤部	Administration of Kampo medicine through a tube at an advanced critical care center	The Journal of Medical Investigation. 2018; 65:32-36	Original Article
212	Naoto Okada, Aki Murakami, Shiori Urushizaki, 他	薬剤部	Extracts of immature orange (Citrus fructus immaturus) and citrus unshiu peel (Citrus unshiu pericarpium) induce P-glycoprotein and cytochrome P450 3A4 expression via upregulation of pregnane X receptor	Front Pharmacol. 2017 Feb 21;8:84	Original Article
213	Hioka A, Mizobuchi Y, Tada Y, 他	脳神経外科	Usefulness of a novel higher brain dysfunction screening test for evaluating higher brain function in healthy persons.	The journal of medical investigation. 2017 Sep; 64(3,4): 280-285	Original Article
214	Kanematsu Y, Satomi J, Kuwayama K, 他	脳神経外科	Treatment Outcome of Carotid Artery Stenting Underwent within 14 Days of Stroke Onset - Consideration of Safety and Efficacy of Urgent Carotid Artery Stenting for Neurological Status of the Distal	Neurol Med Chir (Tokyo). 2017Jun; 57(6): 278-283	Original Article
215	Mizobuchi Y, Muramatsu K, Ohtani M, 他	脳神経外科	The Current Status of Microvascular Decompression for the Treatment of Hemifacial Spasm in Japan: An Analysis of 2907 Patients Using the Japanese Diagnosis	Neurol Med Chir (Tokyo). 2017 Apr; 57(4): 184-190	Original Article
216	Mizobuchi Y, Makoto OHTANI, Junichiro SATOMI, 他	脳神経外科	The Current Status of Microvascular Decompression for the Treatment of Trigeminal Neuralgia in Japan: An Analysis of 1610 Patients Using the	Neurol Med Chir (Tokyo). 2018 Jan; 58(1): 10-16	Original Article
217	Morigaki R, Goto S	脳神経外科	Striatal Vulnerability in Huntington's Disease: Neuroprotection Versus Neurotoxicity	Brain Sciences. 2017 Jun; 7(6): pii E63	Original Article
218	Okazaki T, Nakagawa H, Yagi K, 他	脳神経外科	Bone scintigraphy for the diagnosis of the responsible level of osteoporotic vertebral compression fractures in percutaneous balloon kyphoplasty	Clin Neurol Neurosurg. 2017 Jan; 152: 23-27	Original Article
219	Shono K, Satomi J, Tada Y, 他	脳神経外科	Optimal Timing of Diffusion-Weighted Imaging to Avoid False-Negative Findings in Patients With Transient Ischemic Attack	Stroke. 2017 Jul; 48(7): 1990-1992	Original Article
220	Sogabe S, Satomi J, Tada Y, 他	脳神経外科	Intra-arterial high signals on arterial spin labeling perfusion images predict the occluded internal carotid artery segment.	Neuroradiology. 2017 Jun; 59(6): 587-595	Original Article
221	Yagi K, Nakagawa H, Okazaki T, 他	脳神経外科	Noninfectious prevertebral soft-tissue inflammation and hematoma eliciting swelling after anterior cervical discectomy and fusion	J Neurosurg Spine. 2017 Apr; 26(4):459-465	Original Article
222	Yagi K, Nakagawa H, Mure H, 他	脳神経外科	Cryptic Recanalization of Chronic Vertebral Artery Occlusion by Head Rotation	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2017 Apr; 26(4):e60-61	Original Article
223	Yamaguchi I, Satomi J, Yamamoto N, 他	脳神経外科	Coexistence of Quasi-moyamoya Disease and POEMS Syndrome in a Patient with Intracranial Hemorrhage: A Case Report and Literature Review	NMC Case Report Journal. 2016 Dec; 4(1): 5-9	Case report
224	Nagahiro S, Tada Y, Satomi J, 他	脳神経外科	Treatment of Unruptured Cerebral Aneurysms with the Mineralocorticoid Receptor Blocker Eplerenone-Pilot Study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2018 Aug; 27(8):2134-2140	Original Article
225	Okazaki T, Nakagawa H, Hayase H, 他	脳神経外科	Idiopathic and Chronic Epidural Hematoma in the Lumbar Spine: A Case Report and Review of Literatures	Neurologia medico-chirurgica. 2018 Mar; 58(3): 138-144	Case report
226	Okazaki T, Irie S, Inagaki T, 他	脳神経外科	Coloring Technique of Magnetic Resonance Angiography for Superficial Temporal Artery to Middle Cerebral Artery Bypass Surgery.	World neurosurgery. 2018 Apr; 112: e113-e118	Original Article
227	Hisanori Uehara	病理部	Adipose tissue:Critical contributor to the development of prostate cancer	J Med Invest. 2018;65(1.2):9-17	Review

計227件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに  
限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の  
組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含め  
るものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.と  
する。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない);  
巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断され  
る主なものを記入すること。  
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織，申請手続き，審議，有害事象，実施状況報告，終了報告など会議等委員会運営に必要な事項），2. 臨床研究実施に係る標準業務について，3. 臨床研究に関連する重篤な有害事象対応について，4. 研究者主導臨床研究におけるモニタリング又は監査の受入れについて，5. 他の研究期間への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要，手続き及び方法，勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年18回
・ 研修の主な内容 臨床試験管理センターが主催する臨床試験研修セミナー（臨床研究実施の基準と現状，日本における倫理指針と倫理性担保，倫理委員会申請手続き，CRC活動と臨床研究支援，研究倫理，先進医療，医学研究における統計解析，モニタリング・監査）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

希望する診療領域に応じて卒業後3～6年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設（国内外）での研修も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 319人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	講師	23年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
長井幸二郎	内科	講師	23年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	神経内科	講師	23年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
長井幸二郎	腎臓内科	講師	23年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	准教授	26年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	血液内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
北川哲也	外科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
丹黒章	外科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	外科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	消化器・移植外科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	准教授	22年	診療科長・プログラム責任者
丹黒章	食道・乳腺甲状腺外科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	29年	診療科長・プログラム責任者
北川哲也	心臓血管外科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
金山博臣	泌尿器科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
三田村佳典	眼科	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
武田憲昭	耳鼻咽喉科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
苛原稔	産婦人科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
大森哲郎	精神科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者

香美祥二	小児科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
田中克哉	麻酔科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急科	特任教授	21年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	28年	診療部長・プログラム責任者
谷 憲治	総合診療部	教授	36年	診療部長・プログラム責任者
加藤真介	リハビリテーション科	教授	34年	診療部長・プログラム責任者

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1) 院内認定コース（院内）

看護部では、特定の専門領域において3年以上の実務経験のある医療者を対象とした質の高い医療人を育成するために、院内認定コースを10コース開講している。研修は、各コースに該当する領域の認定看護師、専門看護師、エキスパート助産師らが担当し、規定の出席・試験・レポート評価が合格基準を満たした受講生には、徳島大学病院長から修了書及びバッジが授与される。

院内認定取得後は、各コースの専門性を生かした質の高い看護ケアを、多職種とともにチームで実践している。

- ・研修の期間・実施回数 H29年6月～H30年3月 300回
- ・研修の参加人数 28名

2) 院内認定コース：フォローアップ研修

院内認定取得者のためのフォローアップ研修を年1回以上実施している。院内認定資格は、5年毎の更新制度を取り入れているため、フォローアップ研修を通して認定取得者の活動支援及び能力の維持・向上支援を行っている。

- ・研修の期間・実施回数 H29年7月～H30年1月 31回
- ・研修の参加人数 83名

3) 医療技術部門キャリア形成支援研修会

医療技術職員対象で、日頃の業務に役立ちキャリアアップにつながる研修を実施している。

- ・研修の期間・実施回数 4月～3月 12回
- ・研修の参加人数 284人

4) 栄養セミナー

栄養管理に必要な栄養評価、経腸栄養、点滴などについて学ぶ。本セミナーに全回出席し、さらに病棟実習及び症例報告の提出（3例）行った場合は、NST加算のためのメンバー要件である「栄養管理に関わる所定の研修を修了した者」として修了証明書が発行される。

- ・研修の期間・実施回数 6月～12月 12回
- ・研修の参加人数 295人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

1) 退院支援看護師育成コース

入院時から退院後の地域での暮らしを見据えた退院支援ができ、きめ細やかな継続ケアの実現を図ることができる看護師の育成を実施している。

- ・研修の期間・実施回数 平成29年6月～平成30年1月 25回
- ・研修の参加人数 7名

### ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

#### ・研修の主な内容

#### 1) 院内認定コース（外部公開）

院内認定コース10コースの研修コースプログラム及びコースの一部の講義を徳島県下の病院に公開し、地域における質の高い医療の推進、医療人の育成に貢献している。

- ・研修の期間・実施回数 H29年6月～H30年3月 300回
- ・研修の参加人数 780名（うち、各コースにおける全講義出席者 5名）

#### ・研修の主な内容

看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。

- ・研修の期間・実施回数（延べ日数）・研修の参加人数
- （看護師）8月～1月・128日・14名
- （薬剤師）12月・2日・1名
- （管理栄養士）11月・24日・6名
- （臨床検査技師）4月～3月・通年・21名
- （診療放射線技師）4月～9月・20日・1名
- （理学療法士）4月～3月・179日・10名
- （歯科衛生士）4月～3月・12日・3名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	①. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 永廣 信治	
管理担当者氏名	総務課長 樋谷 和也 経理調達課長 川野 茂 医事課長 沖津 貴司 薬剤部長 石澤 啓介 看護部長 高開 登茂子 診療支援部長 中尾 隆之 病院情報センター長 廣瀬 隼 手術部長 島田 光生 放射線部長 原田 雅史 ME管理センター長 北川 哲也	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	文書ファイル又は電子媒体で保管 ※診療録の病院街持ち出しは認めていない
		各科診療日誌	各診療科(部)	
		処方せん	病院情報システム	
		手術記録	病院情報システム	
		看護記録	病院情報システム	
		検査所見記録	病院情報システム	
		エックス線写真	病院情報システム	
		紹介状	病院情報システム	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書ファイルで保管
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	文書ファイルで保管
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課	文書ファイルで保管
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
		職員研修の実施状況	医事課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課・医事課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課	
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 岡田 俊	
閲覧担当者氏名	総務課長 樋谷 和也	
閲覧の求めに応じる場所	総務課	
閲覧の手続の概要 閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談へ及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（☑・無）</p> <p>・ 開催状況：年14回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>リスクマネジメント委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。</li> <li>2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。</li> <li>3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。</li> <li>4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。</li> <li>5 その他医療上の事故等に関すること。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>平成29年度</p> <p>第1回安全管理研修会「麻薬・毒薬・向精神薬の管理について」 「医薬品の適応外使用等に関する取り決めについて」</p> <p>第2回安全管理研修会「本院における安全管理」</p> <p>第3回安全管理研修会「放射線診断科領域の安全管理2017」</p> <p>第4回安全管理研修会「最新の医療安全の動向－新規に開始された制度等について－」</p>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

事故報告等の報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により報告される。報告されたインシデントは、リスクマネージャーからの報告や安全管理部リスクマネジメント部門員による現場確認及び当事者等の事情聴取により確認され、安全管理部リスクマネジメント部門会議（分析）において、インシデント報告書に基づき改善策を検討する。次に、リスクマネジメント部門会議（分析）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。さらに、これらの改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会でフィードバックする。

次のステップとして、実施された改善策のうち、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）で評価し、改善策を検討する。上記と同様に、リスクマネジメント部門会議（評価）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。次に、これらの実施された改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で再度フィードバックする。さらに、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返し行う。（PDCA手法を取り入れている。）

分析方法については、インシデント報告された報告事例（ひと月約250件程度）を職種の違う担当者が分担して1件1件内容を確認し、インシデントへの意見等を出し合う。その中で、インシデントが警鐘的な事例や、インシデントが他部署にわたる事例など、また、全国的に頻発している事例などを選び、2～3事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	④・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談へ及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年13回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内感染の予防及び対策に関すること。</li> <li>2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>3 院内感染発生時の措置に関すること。</li> <li>4 職員の院内感染の教育に関すること。</li> <li>5 感染制御部の運営に関すること。</li> <li>6 その他院内感染に関すること。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年3回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>平成29年度</p> <p>第1回感染対策研修会「標準予防策について」  「肝炎の最新TOPICSと感染対策について」  「肝炎ウイルス陽性患者への受診勧奨について」</p> <p>第2回感染対策研修会「HIV陽性者として生きること」</p> <p>第3回感染対策研修会「冬の感染症の予防対策について」</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1 毎週1回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。
- 2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について届出制を実施しているが、抗MRSAについてはTDMの実施状況と抗MRSAの適正使用について毎月検討している。
- 3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に1回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。
- 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面接をすべての事例で行い、改善策をフィードバックしている。
- 5 ICUでのBSIサーベイランス、消化器外科・小児対象の心臓血管外科でのSSIサーベイランスを実施している。
- 6 教育体制として①感染対策研修会、②部署別出張研修、③研修医研修、④看護師研修（新人、2年目、専門）、⑤感染管理院内認定コース、⑥育休復帰者研修に分けて計画している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>「医薬品の安全管理」</li> <li>「処方時の注意点と薬剤業務」</li> <li>「注意すべき薬剤について」</li> <li>「インシデント事例から学ぶ医薬品の取り扱い」</li> <li>「麻薬・毒薬・向精神薬の管理について」</li> <li>「医薬品情報の重要性について」</li> <li>「医薬品の禁忌・適応外使用等に関する取り決めについて」</li> <li>「副作用報告制度について」</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (☑・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>各種薬剤業務、病棟における医薬品管理が適正に行われているかを病棟間相互チェック等の際に調査し、不備な点を指摘し改善している。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 偏頭痛治療薬であるイミグラン注3（スマトリプタンコハク酸塩注射液）を周期性嘔吐症に使用。 使用期間：2018年8月16日～2021年8月15日 使用方法：嘔吐発作急性期に1回1.5mg皮下注を行う。 有害事象の把握方法：血液検査の実施、入院管理にて医師・看護師の厳重な監視の下で投与する。 慎重な観察、バイタル測定、自覚症状に留意して管理を行う。</li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含め、病棟における医薬品の管理体制を整備した。</li> <li>・ 薬剤管理指導業務により得られた副作用情報を毎週薬局会で薬剤部員に伝えている。</li> <li>・ 医薬品適応外使用する場合の院内規定を設けるとともに、適応外使用に関する情報を収集し医薬品安全管理責任者から安全管理部への報告体制および診療科への指導体制を整備した。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年48回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい医療機器の導入時の研修について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 平成29年4月～平成30年3月までに、新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器（臨床検査機器、放射線機器含む）11機種に対し、計24回実施した。</li> </ul> </li> <li>2. 特定機能病院における医療機器研修について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 平成29年度新採用者オリエンテーション（対象：医師、看護師）にて、医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の研修会を実施した。正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れ、2回実施した。</li> <li>・ 平成27年度から各病棟（東病棟、西病棟）、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期（要望依頼時）に実施することにより、平成26年度まで実施していた定期研修会より従事者の参加人数が増加している。平成29年度に実施した医療機器は人工呼吸器（ネーザルハイフロー等含む）、除細動装置、血液透析装置等で、計22回（参加人数：209名）実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (☑・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器製造販売メーカーの指定期間（使用年数または使用時間）により、予防メンテナンスマンテナンスや機器のオーバーホールをメーカーへ依頼し、実施している。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：使用事例無し</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：               <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の添付文書及び医薬品・医療機器総合機構（PMDA）の医療機器安全性情報サービスに登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報は、情報の性質や内容により異なるが、使用者（医療従事者）や内容が特定の部署に限定される場合には個別に必要な部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内周知している。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副病院長をもって充てている。</p> <p>また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集、整理し医療スタッフへ提供および周知状況を確認する体制を整備した。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者（薬剤部安全管理担当者）を定めるとともに、未承認等の医薬品の使用の情報等の収集及び指導等を行う体制を整備した。</p> <p>・担当者の指名の有無（☑・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部、職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☑・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☑・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。</p> <p>インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的</li> <li>2 対象</li> <li>3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が説明し、誰が立ち会うのか</li> <li>・どこで行うのか</li> <li>・記録と保管</li> <li>・説明と同意</li> <li>・説明の内容</li> <li>・セカンドオピニオンについて</li> </ul> </li> </ol>	

- ・代理人が必要な場合の説明と同意
- ・緊急時の対応

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：          診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。          診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（2）名          うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（2）名          うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名          うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名          （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。</li> <li>（2）事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。</li> <li>（3）患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。</li> <li>（4）医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。</li> <li>（5）医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。</li> <li>（6）医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。</li> <li>（7）インシデント報告の管理に関すること。</li> <li>（8）リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。</li> <li>（9）医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>（10）医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。</li> <li>（11）医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。</li> <li>（12）その他医療上の事故防止及び医療の安全性の向上に関すること。</li> </ol> <p>リスクマネジメント委員会にて審議された医療安全に資する診療内容について、リスクマネジメント評価委員会にて従事者の認識確認を常時行っている。          平成29年度は麻薬管理フロー・マニュアルの遵守状況、弾性ストッキングの正しい着用方法などの項目についてモニタリングを行っている。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。          ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）</li> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療</li> </ul>	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

- (1) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関する  
こと。
- (2) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療実施後の症例報告の検証に関する  
こと。
- (3) その他高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器に関すること。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 ( 9 件 ) 、及び許可件数 ( 6 件 )

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  ・ 無 )

・ 活動の主な内容 :

- (1) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。
- (2) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。
- (3) その他未承認新規医薬品に関すること。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  ・ 無 )

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  ・ 無 )

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 2 0 4 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 4 8 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- (1) 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。
- (2) 医療上の事故等発生時の対応に関すること。
- (3) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関する  
こと。
- (4) 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。
- (5) その他医療上の事故等に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：筑波大学附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：防衛医科大学学校病院）・無
- ・技術的助言の実施状況

本院から安全管理部長はじめ安全管理部のメンバーが筑波大学附属病院を訪問し、各種項目についての実施状況の確認を行った。そのうち、未読レポートの確認体制についての助言や、高難度新規医療技術におけるICの書式の統一や、申請時の費用面の記載の明確化が臨まれる等の助言を行った。

また、本院も防衛医科大学学校病院からのチェックを受け、未読レポートのシステム改善や、医師によるインシデントレポート報告件数の改善、インフォームドコンセント実施時に異なる職種の同席が望ましいなどの助言をいただいた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、当該センターが至急又は重大と判断する相談内容は、病院長に直接報告を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、小テストやe-learningを活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

毎年安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者が必ず毎年受講している。

また、H29年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者がそれぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）



規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容 今後、徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て、選考基準を決定し公表する。</li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 検討中</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="radio"/>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( 有・<input checked="" type="radio"/> )</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	①・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 本院の管理運営に関する重要事項を審議する</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ①・無 ）</li> <li>・公表の方法 WEB上にて公表</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・② ）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
永廣 信治	○	医師	病院長
香美 祥二		医師	副病院長（総務担当）
佐田 政隆		医師	副病院長（診療担当）
北畑 洋		医師	副病院長（歯科担当）
加藤 真介		医師	副病院長（医療安全管理担当）
高開 登茂子		看護師	副病院長（看護担当）
赤池 雅史		医師	病院長補佐（教育・研修・地域連携担当）
大藤 純		医師	病院長補佐（救急・災害担当）
田中 栄二		歯科医師	病院長補佐（医歯連携担当）
西岡 安彦		医師	病院長補佐（国際交流担当）
廣瀬 隼		医師	病院長補佐（病院情報担当）
島田 光生		医師	病院長補佐（業務改善担当）
白山 靖彦		教授	病院長補佐（患者支援・福祉担当）
篠原 義明		(外部有識者)	病院長補佐（経営担当）
岡田 俊		事務	病院長補佐（事務担当）
上原 久典		医師	病理部
谷 憲治		医師	総合診療部
船木 真理		医師	糖尿病対策センター
居村 暁		医師	地域外科診療部
高山 哲治		医師	内科（消化器内科）
長井 幸二郎		医師	内科（腎臓内科）
遠藤 逸朗		医師	内科（内分泌・代謝内科）
安倍 正博		医師	内科（血液内科）
梶 龍兒		医師	内科（神経内科）
北川 哲也		医師	外科（心臓血管外科）
丹黒 章		医師	外科（食道・乳腺甲状腺外科）

金山 博臣		医師	外科（泌尿器科）
石橋 広樹		医師	外科（小児外科・小児内視鏡外科）
滝沢 宏光		医師	外科（呼吸器外科）
三田村 佳典		医師	感覚・皮膚・運動機能科（眼科）
武田 憲昭		医師	感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
西良 浩一		医師	感覚・皮膚・運動機能科（整形外科）
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能科（皮膚科）
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能科（形成外科）
高木 康志		医師	脳・神経・精神科（脳神経外科）
田中 克哉		医師	脳・神経・精神科（麻酔科）
大森 哲郎		医師	脳・神経・精神科（精神科）
苛原 稔		医師	小児・周産・女性科（産科婦人科）
原田 雅史		医師	放射線診断科
生島 仁史		医師	放射線治療科
松尾 敬志		歯科医師	歯科（第一保存科）
湯本 浩通		歯科医師	歯科（第二保存科）
市川 哲雄		歯科医師	歯科（第一補綴科）
松香 芳三		歯科医師	歯科（第二補綴科）
誉田 栄一		歯科医師	歯科（歯科放射線科）
岩本 勉		歯科医師	小児歯科
東 雅之		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
宮本 洋二		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
楊河 宏章		医師	臨床試験管理センター
河野 文昭		歯科医師	総合歯科診療部
石澤 啓介		薬剤師	薬剤部長
中尾 隆之		技師	診療支援部長
濱田 康弘		医師	疾患治療栄養学
竹谷 豊		医師	栄養学科
近藤 和也		医師	保健学科
日野出 大輔		歯科医師	口腔保健学科
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

<p>管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> ・無 ）</li> <li>・ 公表の方法 WEB上にて公表</li> <li>・ 規程の主な内容 （徳島大学病院規則） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。</li> <li>・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。</li> </ul> </li> </ul> <p>（徳島大学病院院内組織に関する内規）</p>
---

- ・各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
- ・診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
- ・病院長は、診療科長が次のいずれかに該当する場合は、病院教授階の議を経て診療科長を解任することができる。
  - (1)心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
  - (2)職務上の義務違反があるとき。
  - (3)その他診療科長たるに適しないと認めるとき。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 副病院長5名（総務、診療、歯科、医療安全管理、看護）
  - ・ 副病院長は病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。
  
  - ・ 病院長補佐9名（教育・研修・地域連携、救急・災害、医歯連携、国際交流、病院情報、業務改善、患者支援・社会福祉、経営、事務）
  - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
  
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
管理者向けの研修に参加させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況					有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査委員会の開催状況：年2回</li> <li>・ 活動の主な内容： 次の事項を審議する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関すること。</li> <li>2 安全管理状況及び改善状況に関すること。</li> </ul> </li> <li>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法： 徳島大学・徳島大学病院のホームページにて公表</li> </ul>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院・ 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
白川 剛	白川剛法律事務所・ 弁護士		法律に関する識見を有するため	有・無	1
森田 敏子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・教授		医療安全管理についての知識を有し、 医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者（学識経験を有する者）	有・無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人徳島大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則に基づき活動

- ・ 専門部署の設置の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 (  ・ 無 )
- ・ 公表の方法      WEB上にて公表

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況</li> <li>・ 会議体の実施状況（年4回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年4回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 WEB上にて公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・通報件数（年 0件）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）
- ・周知の方法 徳島大学のホームページにて周知，院内各部署に通知



(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
●IS09001 一般社団法人 日本能率協会審査登録センター 登録改訂日：2017年2月7日	
●IS015189 公益財団法人 日本適合性認定協会 有効期間：2015年12月17日～2019年7月31日	
●プライバシーマーク 一般財団法人 医療情報システム開発センター 更新審査受審日：2018年6月12日 (登録改訂手続き中)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要	
1) 病院ホームページへの掲載	
2) 広報誌：①病院概要 ②徳大病院だより “いきいきらいふ” 年4回発行 (5,000部×4回)	
3) 市民公開講座 (徳島大学病院フォーラム) 年1回開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
・がん診療連携センター 都道府県がん診療連携拠点病院の指定をうけ、複数の診療科と県内3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院および他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携および均てん化を図る中心的な役割を果たしている。 本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門の6つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機	

器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。

・医科と歯科の連携

医科入院患者およびICU患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに特定の診療科（精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科）に特化した口腔ケア体制を構築している。

・耳鼻科と歯科の連携

摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要となるVE（嚥下内視鏡検査）の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。

・形成外科と矯正歯科の連携

口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的に行い実施し、口蓋裂患者、顎変形症患者の、口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。

(様式第8)

徳大院総第103号  
平成30年10月3日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人徳島大学  
学長 野地 澄 晴

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

毎年安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が必ず毎年受講している。  
また学外研修については、平成29年度に日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修を受講しており、平成30年度においても、引き続き同研修を受講予定である。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（2）名  
うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（2）名  
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名  
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

専従医師の配置については、現在専任医師2名を配置しており、平成32年3月までに専従医師を配置する予定である。  
専従薬剤師の配置については、平成30年4月に専従薬剤師1名を配置済みである。  
専従看護師の配置については、既に現在専従看護師2名が配置済みである。

